

0001

介護過程の基本・情報収集 > 介護過程の意義・目的 | 難易度：基礎

介護過程の説明として、最も適切なものはどれか。

- ア．利用者が望む生活の実現に向けて、情報を根拠に考え、計画し、実践し、評価する一連のプロセスである。
- イ．介護職員が経験上よいと思う介助方法を、そのまま継続する手順である。
- ウ．疾患の治療計画を介護職員が独自に作成する過程である。
- エ．施設の業務を効率化するために利用者の生活を統一する仕組みである。

答え・解説

正答：ア

ア：介護過程は、利用者が望む生活を実現するために科学的思考と実践をつなぐプロセスである。

イ：経験だけに依存せず、根拠を明確にして個別に検討する必要がある。

ウ：治療計画は医療職の領域であり、介護過程は生活支援を中心に展開する。

エ：介護過程は業務都合の統一ではなく、利用者ごとの生活課題に応じた個別支援を目指す。

総合解説：介護過程では、本人の望む生活を出発点に、情報収集、アセスメント、計画、実施、評価を根拠をもってつなげる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0002

介護過程の基本・情報収集 > 介護過程の意義・目的 | 難易度：基礎

利用者の生活課題に向き合う際、介護過程が目指す到達点として最も適切なのはどれか。

- ア．介護福祉職が理想とする生活習慣に利用者を合わせる。
- イ．利用者が望む生活の実現を妨げている生活課題を明らかにし、その解決に向けて支援する。
- ウ．家族の希望を本人の希望より常に優先する。
- エ．すべての利用者に同じ介助手順を適用する。

答え・解説

正答：イ

ア：支援者の価値観への同調ではなく、本人の意思や生活を尊重する。

イ：介護過程の中心は、利用者が望む生活の実現に向けた生活課題の解決である。

ウ：家族の意向は重要な情報だが、本人の意思を中心に検討する。

エ：個別性を踏まえた支援が必要であり、一律の適用は介護過程の目的に反する。

総合解説：生活課題は「支援者が困ること」ではなく、本人の望む生活が実現しにくい背景を含めて捉える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0003

介護過程の基本・情報収集 > 介護過程の意義・目的 | 難易度：基礎

介護過程を展開する意義として、適切なものはどれか。

- ア．利用者ごとの違いを減らし、介護方法を画一化できる。
- イ．介護記録を減らし、支援内容を口頭だけで共有できる。
- ウ．利用者の心身の状況や生活歴、希望に応じた根拠ある個別ケアにつなげられる。
- エ．介護福祉職だけで支援を完結させ、他職種との情報共有を不要にできる。

答え・解説

正答：ウ

ア：個別性を踏まえることが重要であり、画一化が目的ではない。

イ：計画や実施、評価を共有するためには適切な記録が必要である。

ウ：情報を整理し根拠を明確にすることで、本人に合った個別的な支援方法を検討できる。

エ：必要に応じて多職種と連携し、共通理解のもとで支援する。

総合解説：介護過程は、個別性と根拠を両立させるための思考と実践の枠組みである。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0004

介護過程の基本・情報収集 > 介護過程の意義・目的 | 難易度：標準

介護過程を循環的なプロセスとして捉えた説明として、最も適切なものはどれか。

- ア．計画を作成した後は、利用者の状態が変化しても原則として変更しない。
- イ．実施した介護が計画どおりなら、目標の達成度は確認しなくてよい。
- ウ．評価は支援終了時にだけ行い、途中では実施しない。
- エ．評価の結果から必要に応じて再アセスメントを行い、計画を見直して次の支援につなげる。

答え・解説

正答：エ

ア：状態や希望が変化すれば、再評価と見直しが必要になる。

イ：計画どおりの実施だけでなく、利用者の目標達成や生活の変化を評価する。

ウ：支援中も観察やモニタリングを行い、必要時に調整する。

エ：介護過程は一度計画して終わるものではなく、評価を次のアセスメントや計画修正に反映する循環的な過程である。

総合解説：「アセスメント→計画→実施→評価→再アセスメント」という循環を理解することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0005

介護過程の基本・情報収集 > 介護過程の意義・目的 | 難易度：標準

介護福祉職が介護過程を展開する際の「根拠」に関する記述として、最も適切なものはどれか。

- ア．収集した事実や本人の意向、専門知識を関連付け、なぜその支援が必要か説明できるようにする。
- イ．長年行われてきた方法であれば、利用者に合うかどうかを検討する必要はない。
- ウ．経験豊富な職員の直感は、記録や情報より常に優先される。
- エ．支援理由は職員間で共有せず、担当者だけが理解していればよい。

答え・解説

正答：ア

ア：介護過程では、支援の理由を情報と専門知識に基づいて説明できることが求められる。

イ：慣例だけでは根拠にならず、現在の本人の状態や希望との適合を検討する。

ウ：経験は参考になるが、客観的情報や本人の意向と統合して判断する。

エ：チームで共通理解をもつため、支援の根拠を共有することが重要である。

総合解説：根拠ある介護とは、経験を否定することではなく、事実・本人の意向・専門知識を統合して説明可能にすることである。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0006

介護過程の基本・情報収集 > 介護過程の意義・目的 | 難易度：標準

介護計画を検討している。利用者は「できるだけ自分で朝の身支度を続けたい」と話している。介護過程の考え方として最も適切なものはどれか。

- ア．転倒予防のため、本人に相談せず身支度をすべて職員が行う。
- イ．本人が続けたい行為と必要な支援を一緒に確認し、計画に反映する。
- ウ．家族が「時間がかかる」と言えば、本人の希望は計画から外す。
- エ．職員の勤務時間に合わせ、身支度の時間を一律に変更する。

答え・解説

正答：イ

ア：安全は重要だが、本人の意思や残存能力を無視した全面代行は自立支援に反する。

イ：本人の望む生活や自己決定を計画に反映し、できることを生かすことが利用者主体の介護過程につながる。

ウ：家族の意向も聞くが、本人の希望を中心に調整する。

エ：職員都合ではなく、本人の生活習慣や希望を考慮する。

総合解説：介護過程では、本人を計画の対象ではなく主体として位置付け、意思と可能性を支援内容に反映する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0007

介護過程の基本・情報収集 > 介護過程の意義・目的 | 難易度：標準

介護過程をチームで共有する意義として、最も適切なものはどれか。

- ア．全職種が同じ専門業務を行えるようにする。
- イ．介護福祉職が他職種の判断を代行できるようにする。
- ウ．利用者の目標と支援の根拠を共有し、各職種が役割を踏まえて一貫した支援を行いやすくする。
- エ．職員間の意見が異なる場合に、利用者へ情報を知らせないために行う。

答え・解説

正答：ウ

ア：多職種連携は職種間の役割を消すことではなく、専門性を生かして協働することである。

イ：他職種の専門判断を介護福祉職が代行するものではない。

ウ：共通の目標と情報を共有することで、支援の方向性をそろえ、専門性を補完し合える。

エ：利用者への説明と参加を確保しつつ、チーム内で調整する。

総合解説：介護過程は個人の思考だけでなく、チームが同じ方向で支援するための共通言語としても機能する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0008

介護過程の基本・情報収集 > 介護過程の意義・目的 | 難易度：標準

同じ脳梗塞後遺症があるAさんとBさんに対する介護過程の展開として、最も適切なのはどれか。

- ア．疾患が同じなので、同じ介護計画を用いる。
- イ．年齢が近ければ、生活歴の確認は省略する。
- ウ．家族構成が違って、支援内容への影響はない。
- エ．同じ疾患名でも生活歴、活動状況、本人の希望、環境が異なるため、それぞれにアセスメントして計画する。

答え・解説

正答：エ

ア：疾患名が同じでも生活機能や希望、環境は異なるため一律の計画は適切でない。

イ：年齢だけでは生活の個性を把握できず、生活歴は重要な情報である。

ウ：家族や社会環境は生活や支援方法に影響するため把握が必要である。

エ：疾患は重要な情報だが、介護過程では生活全体と本人の希望を踏まえて個別に生活課題を把握する。

総合解説：診断名や障害名だけでなく、本人がどのように生活しているかを多面的に捉えることが個別ケアの基盤になる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0009

介護過程の基本・情報収集 > 介護過程の意義・目的 | 難易度：応用

介護過程の展開において、専門知識や技術に加えて倫理的視点が必要な理由として、最も適切なものはどれか。

ア．支援方法が技術的に可能でも、本人の尊厳や意思、権利に配慮して適切性を判断する必要があるから。

イ．安全性が高い方法であれば、本人への説明や同意は不要になるから。

ウ．介護過程では客観的情報を用いず、倫理観だけで判断するから。

エ．倫理は終末期だけに必要で、日常生活支援には関係しないから。

答え・解説

正答：ア

ア：専門職の支援は「できるか」だけでなく「本人にとって適切か」を尊厳・意思・権利の観点から検討する必要がある。

イ：安全性が高くても本人への説明や意思の尊重は必要である。

ウ：倫理だけでなく、客観的情報や専門知識、本人の意向を統合して判断する。

エ：尊厳や自己決定は日常のあらゆる支援に関わる。

総合解説：介護過程の科学性と倫理性は対立するものではなく、根拠ある個別支援を本人の尊厳に沿って実践するために両方が必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0010

介護過程の基本・情報収集 > 介護過程の意義・目的 | 難易度：応用

介護過程を継続的に展開することが介護の質の向上につながる理由として、最も適切なものはどれか。

ア．一度作成した計画を変更しないことで職員のばらつきをなくせるから。

イ．支援の結果を評価し、目標や方法が適切だったかを検証して次の支援に修正を反映できるから。

ウ．利用者の満足よりも職員の作業速度を優先できるから。

エ．評価を省略し、計画作成に時間を集中できるから。

答え・解説

正答：イ

ア：計画の固定ではなく、本人の変化に応じて見直すことが必要である。

イ：介護過程では実践と評価を結び付けることで、うまくいった点と修正すべき点を明確にし、質改善につなげられる。

ウ：介護の質は本人の生活や目標の実現を中心に評価する。

エ：評価は介護過程の重要な構成要素であり、省略すると改善につながらない。

総合解説：評価と再アセスメントがあることで、介護は単発の行為ではなく継続的に改善される実践となる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0011

介護過程の基本・情報収集 > 情報収集・生活歴 | 難易度：基礎

介護過程の情報収集として、最も適切なのはどれか。

- ア．医療診断名だけを収集すれば十分である。
- イ．家族の希望だけを収集し、本人の意向は確認しない。
- ウ．心身の状態だけでなく、本人の希望、生活歴、生活習慣、家族・社会関係、環境なども把握する。
- エ．介護職員が支援しやすい情報だけを選んで収集する。

答え・解説

正答：ウ

ア：診断名だけでは日常生活や本人の希望、環境を把握できない。

イ：本人の意向を直接確認することが基本である。

ウ：本人の生活を理解するには、身体面だけでなく心理・社会・環境面を含む幅広い情報が必要である。

エ：利用者の生活全体を理解するために必要な情報を目的をもって収集する。

総合解説：情報収集はアセスメントの基礎であり、本人を生活者として多面的に理解するために行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0012

介護過程の基本・情報収集 > 情報収集・生活歴 | 難易度：基礎

介護過程で生活歴を把握する主な意義として、最も適切なものはどれか。

- ア．過去の職業だけを把握し、現在の希望を推測するため。
- イ．家族に説明せず過去の個人情報をできるだけ多く集めるため。
- ウ．利用者同士を過去の経歴で順位付けするため。
- エ．本人が大切にしてきた習慣や役割、価値観を理解し、その人らしい支援に生かすため。

答え・解説

正答：エ

ア：生活歴は幅広く把握し、現在の本人の意思は別に確認する必要がある。

イ：必要性和プライバシーに配慮して収集する。

ウ：生活歴は比較や評価のためではなく、個別支援の理解に用いる。

エ：生活歴は現在の行動や希望の背景を理解し、本人らしい生活を支える手掛かりになる。

総合解説：生活歴は「昔の話」ではなく、現在の生活の意味や好み、強みを理解するための重要情報である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0013

介護過程の基本・情報収集 > 情報収集・生活歴 | 難易度：基礎

次のうち、主観的情報に当たるものはどれか。

- ア．本人が「夜になると不安で眠れない」と話した。
- イ．体温が38.0 であった。
- ウ．夕食を半量摂取した。
- エ．歩行時に右側へ2回ふらついた。

答え・解説

正答：ア

ア：本人の訴えや感じ方は主観的情報であり、そのまま大切な情報として記録・把握する。

イ：測定値は客観的情報である。

ウ：観察・記録できる事実であり客観的情報である。

エ：観察された行動事実であり客観的情報である。

総合解説：主観的情報と客観的情報は優劣ではなく、両方を組み合わせて本人の状態を理解することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0014

介護過程の基本・情報収集 > 情報収集・生活歴 | 難易度：標準

認知機能に低下がある利用者について、情報収集の方法として最も適切なのはどれか。

- ア．本人には確認せず、家族の説明だけを事実として扱う。
- イ．本人にも分かりやすく尋ねて意思や生活の様子を確認し、必要に応じて家族や記録などの情報を補足する。
- ウ．会話が難しいため、本人の表情や行動は情報として扱わない。
- エ．以前の記録があるため、現在の状態は観察しない。

答え・解説

正答：イ

ア：家族情報は重要だが、本人の意思や感じ方を可能な範囲で直接確認する。

イ：認知機能低下があっても本人から情報を得る努力を行い、必要に応じて複数の情報源で補完する。

ウ：非言語的な反応も重要な情報源になる。

エ：状態は変化するため、現在の情報を継続して収集する必要がある。

総合解説：本人を情報収集の主體的な相手として尊重し、家族・記録・他職種の情報は補完的に統合する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0015

介護過程の基本・情報収集 > 情報収集・生活歴 | 難易度：標準

情報収集時の記録として、最も適切なものはどれか。

- ア．「今日はわがままで食べなかった」と職員の評価だけを書く。
- イ．「いつもと同じ」とだけ記録する。
- ウ．「昼食は主食3割、副菜2割を摂取し、『食欲がない』と話した」と事実と本人の言葉を記録する。
- エ．「病気が悪化したに違いない」と診断的推測だけを書く。

答え・解説

正答：ウ

ア：「わがまま」は主観的評価であり、観察事実や本人の発言を記録する必要がある。

イ：具体性が乏しく、後から状態を比較しにくい。

ウ：観察した事実と本人の発言を具体的に記録すると、後のアセスメントで根拠として利用しやすい。

エ：介護職の観察事実と必要な報告を明確にし、診断を断定しない。

総合解説：情報収集では、事実・本人の言葉・支援者の解釈を混同しないことが、適切な分析につながる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0016

介護過程の基本・情報収集 > 情報収集・生活歴 | 難易度：標準

情報収集の視点として、最も適切なものはどれか。

- ア．できない行為だけを列挙し、できることは記録しない。
- イ．支援量を増やすため、本人ができることも「できない」と記録する。
- ウ．強みは介護計画には関係しないため、趣味や役割は収集しない。
- エ．困難なことに加えて、本人ができていること、得意なこと、支援があればできることも把握する。

答え・解説

正答：エ

ア：できることや可能性も重要なアセスメント情報である。

イ：事実に基づく正確な把握が必要である。

ウ：趣味・役割・得意なことは目標や支援方法の重要な手掛かりになる。

エ：生活課題の把握では、困難だけでなく残存能力や強みを捉えることが自立支援につながる。

総合解説：強みを把握することで、代行中心ではなく本人の能力を生かした支援を計画できる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0017

介護過程の基本・情報収集 > 情報収集・生活歴 | 難易度：標準

介護計画作成後の情報収集について、最も適切なものはどれか。

- ア．状態や生活環境、本人の希望は変化し得るため、支援中も継続して情報を収集する。
- イ．初回アセスメントが終われば、その後の情報収集は不要である。
- ウ．計画期間中は本人の希望が変わっても記録しない。
- エ．状態変化は評価日まで待ってから確認する。

答え・解説

正答：ア

ア：情報収集は初回だけでなく、実施・評価の過程でも継続し、変化を捉える必要がある。

イ：介護過程は循環するため、継続的な観察と情報収集が必要である。

ウ：本人の希望の変化は計画見直しに関わる重要情報である。

エ：急な変化はその都度把握し、必要に応じて報告や計画調整を行う。

総合解説：介護過程では、情報は固定されたものではなく、時間の経過とともに更新されるものとして扱う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0018

介護過程の基本・情報収集 > 情報収集・生活歴 | 難易度：標準

利用者が最近、立ち上がると強いめまいを訴えるようになった。情報収集として最も適切なのはどれか。

- ア．「高齢だから仕方ない」として情報収集を中止する。
- イ．症状の出現時刻や状況、血圧など把握できる事実を記録し、看護職などに報告して必要な医療情報を共有する。
- ウ．介護職だけで薬剤を中止する判断をする。
- エ．本人が不安になるため、症状の有無を尋ねない。

答え・解説

正答：イ

ア：新たな症状は原因を決めつけず、経過を把握して報告する。

イ：介護職は症状を具体的に観察・記録し、医療職と連携して安全な生活支援に必要な情報を得る。

ウ：薬剤変更は介護職の権限ではなく、医療職へ情報共有する。

エ：本人の訴えを確認し、必要な観察と連携を行うことが重要である。

総合解説：情報収集は生活情報だけに閉じず、安全な支援に必要な範囲で医療職等と連携して行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0019

介護過程の基本・情報収集 > 情報収集・生活歴 | 難易度：応用

介護過程のために個人情報を収集する際の考え方として、最も適切なのはどれか。

- ア．将来役立つ可能性があれば、本人に関係のない私生活情報も無制限に集める。
- イ．職員間の興味のために生活歴を共有する。
- ウ．支援に必要な情報を目的に沿って収集し、本人への説明やプライバシーに配慮して適切に扱う。
- エ．本人が話したくない内容は、支援に必要でも強制的に聞き出す。

答え・解説

正答：ウ

ア：必要性のない情報を過度に収集するのは適切でない。

イ：共有は支援に必要な範囲に限定する。

ウ：情報は多ければよいのではなく、支援目的との関連性と本人の尊厳・プライバシーを踏まえて取り扱う。

エ：本人の意思や心理的負担に配慮し、必要性を説明しながら適切に確認する。

総合解説：情報収集は介護過程の基礎だが、本人の尊厳やプライバシーを損なわない方法で行う必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0020

介護過程の基本・情報収集 > 情報収集・生活歴 | 難易度：応用

本人は「自分で入浴できる」と話しているが、家族は「最近浴室で転びそうになった」と話している。情報収集として最も適切なのはどれか。

- ア．家族の話だけを採用し、本人の話は認めない。
- イ．本人の自己申告だけを採用し、転倒リスクは確認しない。
- ウ．情報が一致しないため、入浴に関するアセスメントを中止する。
- エ．本人と家族の情報をどちらも記録し、実際の動作や環境を観察して差の理由を確認する。

答え・解説

正答：エ

ア：本人の認識も重要な情報であり、一方だけで判断しない。

イ：安全面の情報も含めて客観的に確認する必要がある。

ウ：不一致そのものが重要な情報であり、観察や追加情報によって整理する。

エ：情報源による違いは、どちらかを即座に誤りとせず、事実確認や背景理解につなげることが重要である。

総合解説：複数の情報を照合し、矛盾や差異の背景まで検討することが、精度の高いアセスメントにつながる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0021

アセスメント・課題分析 > アセスメント・ICF | 難易度：基礎

介護過程におけるアセスメントとして、最も適切なものはどれか。

- ア．収集した情報を分析・解釈・統合し、本人の望む生活に向けた生活課題と必要な支援を明らかにする。
- イ．情報を項目別に転記する作業だけを指す。
- ウ．介護職員の直感で生活課題を決めることを指す。
- エ．介護計画を実施した後に行う作業である。

答え・解説

正答：ア

ア：アセスメントは情報を集めるだけでなく、意味を考え、関連付け、生活課題と支援の必要性を明確にする過程である。

イ：情報収集は一部であり、その後の分析・解釈・統合が必要である。

ウ：本人の情報と根拠に基づく分析が必要である。

エ：初回計画の前にも行い、評価後には再アセスメントとして繰り返す。

総合解説：厚生労働省資料では、アセスメントに情報収集、分析・解釈・統合、生活課題の抽出が含まれる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0022

アセスメント・課題分析 > アセスメント・ICF | 難易度：基礎

ICFの「活動」に該当するものとして、最も適切なものはどれか。

- ア．地域の自治会の集まりに参加すること。
- イ．ベッドから立ち上がり、トイレまで歩くこと。
- ウ．玄関に段差があること。
- エ．膝関節の可動域が低下していること。

答え・解説

正答：イ

ア：社会生活への関与は主に「参加」の視点で捉える。

イ：活動は、個人による課題や行為の遂行を捉える領域である。

ウ：物理的環境は環境因子として捉える。

エ：身体機能・身体構造の問題として捉える。

総合解説：ICFでは生活機能を複数の構成要素で捉え、活動と参加を生活支援に結び付けて考える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0023

アセスメント・課題分析 > アセスメント・ICF | 難易度：基礎

ICFの環境因子として、最も適切なものはどれか。

- ア．本人が「また散歩したい」と希望していること。
- イ．下肢筋力が低下していること。
- ウ．家の玄関に手すりが設置されていること。
- エ．更衣動作に時間がかかること。

答え・解説

正答：ウ

ア：本人の希望は個人の意向として把握するが、ICFの環境因子ではない。

イ：心身機能の問題として捉える。

ウ：物理的環境や人的支援、制度・サービスなどは環境因子として生活機能に促進的または阻害的に作用する。

エ：行為の遂行は活動の視点で捉える。

総合解説：環境因子は生活機能に影響するため、障害だけでなく環境調整の可能性を考える材料になる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0024

アセスメント・課題分析 > アセスメント・ICF | 難易度：標準

脳梗塞後の片麻痺がある利用者が「近所の喫茶店にまた行きたい」と希望している。ICFを用いたアセスメントとして最も適切なものはどれか。

- ア．麻痺の程度だけを評価し、本人の希望はアセスメントに含めない。
- イ．喫茶店に行く希望があるため、転倒リスクは考えない。
- ウ．外出が難しいため、本人に代わって家族が行けばよいと結論付ける。
- エ．麻痺の程度だけでなく、屋外歩行、喫茶店での交流、道路環境、福祉用具や支援者の状況を関連付けて考える。

答え・解説

正答：エ

ア：心身機能のみでなく、活動・参加や本人の目標を含める。

イ：本人の希望と安全性を両立する支援を検討する必要がある。

ウ：本人自身の参加をどう支えるかを検討する。

エ：ICFでは心身機能だけでなく活動・参加・環境因子を相互に関連付け、本人の生活目標に結び付けて捉える。

総合解説：ICFは「障害があるからできない」と固定せず、環境調整や支援によって活動・参加を広げる視点を与える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0025

アセスメント・課題分析 > アセスメント・ICF | 難易度：標準

アセスメントで「できる活動」と「している活動」を分けて把握する意義として、最も適切なのはどれか。

- ア．能力があるのに日常で行っていない理由を、環境や習慣、支援方法などから検討できる。
- イ．「できる活動」があれば、本人が実際に行っているかは確認しなくてよい。
- ウ．「している活動」だけを見れば、潜在的な能力は分からなくてもよい。
- エ．両者の差は介護計画には影響しない。

答え・解説

正答：ア

ア：能力と実際の生活上の実行状況の差は、環境や支援の見直しにつながる重要な情報である。

イ：実生活での実行状況を確認する必要がある。

ウ：潜在能力を把握することで自立支援の可能性を検討できる。

エ：差の要因を分析することは支援方法の選択に直結する。

総合解説：「できる」と「している」の差を分析することで、過介助や環境上の阻害因子を見つけることができる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0026

アセスメント・課題分析 > アセスメント・ICF | 難易度：標準

アセスメントにおける情報の「関連付け・統合」として、最も適切なのはどれか。

- ア．情報を身体・心理・社会に分けたまま、相互関係を検討しない。
- イ．食事量低下、口腔内の痛み、義歯の不具合、体重減少を関連付け、食事が進まない要因を考える。
- ウ．体重減少だけを見て「食べる意欲がない」と決めつける。
- エ．口腔内の痛みは医療の問題なので介護過程から除外する。

答え・解説

正答：イ

ア：分類後に関連付けて全体像を捉える必要がある。

イ：複数の情報を互いに関連付けて原因や背景を考えることで、生活課題をより具体的に捉えられる。

ウ：複数の可能性を検討し、根拠をもって分析する。

エ：生活への影響を把握し、必要に応じて医療職と連携する。

総合解説：アセスメントは情報の羅列ではなく、事実の意味や関係を考えて生活上の課題に結び付ける思考過程である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0027

アセスメント・課題分析 > アセスメント・ICF | 難易度：標準

ICFの視点をういたアセスメントとして、最も適切なものはどれか。

- ア．本人の病気だけが生活機能を決めると考える。
- イ．環境は生活機能に影響しないと考える。
- ウ．生活機能を妨げる要因だけでなく、本人の能力や周囲の支援など生活を促進する要因も把握する。
- エ．支援者が多いほど必ず自立度が下がると考える。

答え・解説

正答：ウ

ア：生活機能は健康状態と活動・参加、環境因子等の相互作用で捉える。
イ：物理的・人的・制度的環境は生活機能に影響する。
ウ：ICFでは障害や困難だけでなく、環境因子などが促進因子として働く可能性も含めて捉える。
エ：適切な支援は活動や参加を促進することがある。
総合解説：アセスメントでは、本人の強みや環境の促進因子を活用して生活機能を高める視点が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0028

アセスメント・課題分析 > アセスメント・ICF | 難易度：標準

アセスメント結果のまとめ方として、最も適切なものはどれか。

- ア．「高齢なので危険」とだけ記載する。
- イ．「要介護3だから介助が必要」とだけ記載する。
- ウ．「職員が忙しいため見守りを減らす」と記載する。
- エ．「夜間に足元が見えにくく転倒不安があるため、動線の照明と移動方法を見直す必要がある」のように、必要な支援と理由を明確にする。

答え・解説

正答：エ

ア：年齢だけでは具体的な課題や支援理由が分からない。
イ：認定区分だけで個別の生活課題は説明できない。
ウ：職員都合ではなく、本人の生活課題に基づいて支援を検討する。
エ：アセスメントでは、情報からどのような生活課題があり、なぜ支援が必要かを説明できる形に整理する。
総合解説：必要な支援とその理由を明確にすると、介護計画の目標・具体策とのつながりが分かりやすくなる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0029

アセスメント・課題分析 > アセスメント・ICF | 難易度：応用

膝痛がある利用者がデイサービスの体操に参加していない。本人は「階段を下りるのが怖い」と話し、自宅玄関には手すりがない。アセスメントとして最も適切なものはどれか。

ア：膝痛だけでなく、移動能力、外出への不安、玄関環境、送迎方法などを関連付けて参加を妨げる要因を検討する。

イ：膝痛があるため参加は不可能と結論付ける。

ウ：体操参加は本人の意思とは関係なく職員が決める。

エ：玄関の手すりは住宅の問題なので介護過程では扱わない。

答え・解説

正答：ア

ア：参加できない背景には心身機能だけでなく活動能力、心理面、環境因子が関係する可能性があり、相互作用として捉える必要がある。

イ：環境調整や支援方法によって参加可能性が変わるため、即断しない。

ウ：本人の希望や不安を確認し、参加の意味と一緒に検討する。

エ：環境因子は生活機能や参加に影響する重要なアセスメント項目である。

総合解説：ICFを使う目的は分類すること自体ではなく、生活機能に影響する要因を多面的に把握し、支援可能性を見つけることである。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0030

アセスメント・課題分析 > アセスメント・ICF | 難易度：応用

ICFを介護過程に活用する際の「個人因子」の扱いとして、最も適切なものはどれか。

ア：ICFでは個人因子を完全に無視する。

イ：ICFで詳細な分類コードは設けられていないが、年齢、生活歴、価値観、習慣など本人の生活を理解するうえで考慮する。

ウ：個人因子はすべて環境因子としてコード化する。

エ：個人因子だけで活動や参加の状態を説明する。

答え・解説

正答：イ

ア：分類コードがないことと、支援で考慮しないことは同じではない。

イ：個人因子はICFの背景因子として位置付けられるが、詳細分類はされていない。それでも個別支援では重要な情報である。

ウ：個人因子と環境因子は区別される。

エ：生活機能は複数要素の相互作用として捉える。

総合解説：介護過程ではICFの分類枠組みを機械的に当てはめず、本人の生活歴や価値観を含めて個別に理解する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0031

アセスメント・課題分析 > ニーズ・優先順位 | 難易度：基礎

介護過程における「ニーズ（生活課題）」の捉え方として、最も適切なのはどれか。

- ア．本人が口にした要望と常に同じ意味である。
- イ．介護福祉職が困っている業務上の問題を指す。
- ウ．本人の望む生活の実現に向け、情報を分析して明らかになった必要な支援や解決すべき生活上の課題である。
- エ．家族が希望したサービス名そのものを指す。

答え・解説

正答：ウ

ア：要望は重要な情報だが、背景を分析して生活課題を捉える必要がある。

イ：ニーズは利用者の生活を中心に捉える。

ウ：ニーズは本人の発言をそのまま写すだけでなく、希望や生活状況を分析して明確にする。

エ：サービスは手段であり、まず本人の生活課題を明らかにする。

総合解説：要望（デマンド）を尊重しつつ、その背景や生活上の必要性を検討してニーズを明らかにする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0032

アセスメント・課題分析 > ニーズ・優先順位 | 難易度：基礎

生活課題の表現として、最も適切なのはどれか。

- ア．「職員の排泄介助を減らしたい」。
- イ．「要介護3である」。
- ウ．「ポータブルトイレを置く」。
- エ．「自宅のトイレを安全に使用し、夜間も自分のペースで排泄を続けたい」。

答え・解説

正答：エ

ア：職員の業務都合が中心で、利用者の生活課題になっていない。

イ：要介護度は情報であり、具体的な生活課題そのものではない。

ウ：用具は支援手段であり、生活課題そのものではない。

エ：本人が望む生活や活動が分かる形で表現すると、目標や支援内容につなげやすい。

総合解説：生活課題は、本人がどのような生活を実現したいかが見える形にすると介護計画へつながりやすい。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0033

アセスメント・課題分析 > ニーズ・優先順位 | 難易度：基礎

複数の生活課題がある場合の優先順位の検討として、最も適切なのはどれか。

- ア．生命・安全への緊急性、本人の希望、生活への影響、実現可能性などを総合的に検討する。
- イ．職員が短時間で対応できる課題を常に最優先にする。
- ウ．家族が最初に挙げた課題を必ず最優先にする。
- エ．身体機能の問題だけを優先し、参加や心理面は後回しにする。

答え・解説

正答：ア

ア：優先順位は一つの基準だけで決めず、安全性と本人の価値観、生活上の重要性などを統合して判断する。

イ：職員の効率だけでは利用者主体の優先順位にならない。

ウ：家族の意向も含めるが、本人の希望や安全性等を総合する。

エ：本人の生活全体を見て優先順位を検討する。

総合解説：優先順位は固定ではなく、状態や本人の希望の変化に応じて見直す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0034

アセスメント・課題分析 > ニーズ・優先順位 | 難易度：標準

利用者が「毎日、娘に来てもらいたい」と繰り返し話す。アセスメントとして最も適切なのはどれか。

- ア．娘の訪問回数を増やすことだけをニーズと決める。
- イ．発言を尊重しつつ、不安、孤独、生活上の困りごとなど背景を確認し、必要な支援を検討する。
- ウ．依存的な性格と判断して話題を変える。
- エ．家族が難しいと言えば、本人の発言は記録しない。

答え・解説

正答：イ

ア：要望をそのままサービス内容に置き換えず、背景を分析する。

イ：表明された要望の背景を理解することで、本当に解決したい生活課題が明確になることがある。

ウ：ラベリングせず、本人の感情や生活状況を確認する。

エ：本人の要望も重要な情報として記録・検討する。

総合解説：ニーズ把握では、本人の言葉を尊重すると同時に、その背景にある生活上の必要性を検討する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0035

アセスメント・課題分析 > ニーズ・優先順位 | 難易度：標準

利用者は夜間に一人でトイレへ行きたいと希望しているが、最近ふらつきが増えている。優先課題の考え方として最も適切なものはどれか。

ア．転倒の可能性があるため、本人の希望を聞かずにおむつへ変更する。

イ．本人の希望を尊重するため、転倒リスクは評価しない。

ウ．本人の希望を確認しながら、転倒リスクの要因を評価し、安全にトイレへ行くための方法を優先して検討する。

エ．家族が心配していれば、本人の希望は計画から除外する。

答え・解説

正答：ウ

ア：本人の尊厳や自立を損なう可能性があり、代替策を検討する必要がある。

イ：自己決定と安全の両方を考慮する必要がある。

ウ：安全を理由に自己決定を否定するのではなく、本人の希望を実現するために危険因子と支援方法を具体化する。

エ：家族の心配も共有しつつ、本人を中心に支援方法を検討する。

総合解説：介護過程では「安全か自立か」の二者択一ではなく、本人の望む生活をより安全に実現する方法を探る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0036

アセスメント・課題分析 > ニーズ・優先順位 | 難易度：標準

食欲低下、便秘、活動量低下、睡眠不良がみられる利用者の課題分析として、最も適切なものはどれか。

ア．最初に見つけた課題だけを計画し、他の情報は無視する。

イ．身体的課題と生活習慣は互いに影響しないと考ええる。

ウ．すべてを同じ優先度として一度に変更する。

エ．各課題を別々に扱うだけでなく、相互の関連や共通する原因を検討して優先順位を考える。

答え・解説

正答：エ

ア：複数情報の関連を検討する必要がある。

イ：活動量、排泄、睡眠、食事は相互に影響する可能性がある。

ウ：緊急性・重要性・実現可能性を考えて段階的に取り組む。

エ：生活上の問題は相互に影響し合うため、関連性を分析すると効果的な支援の順序が見えてくる。

総合解説：課題同士の関連を整理することで、根本的な要因や波及効果の大きい支援を優先できることがある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0037

アセスメント・課題分析 > ニーズ・優先順位 | 難易度：標準

右片麻痺がある利用者のニーズを検討している。最も適切な視点はどれか。

ア：麻痺による困難だけでなく、左手でできる動作や本人の工夫、環境調整による可能性も含めて課題を捉える。

イ：右手が使いにくいので、すべての生活行為を職員が代行する。

ウ：麻痺があること自体を生活課題として終える。

エ：本人の工夫は専門的ではないため計画に反映しない。

答え・解説

正答：ア

ア：ニーズ把握では不足や障害だけでなく、強みと支援可能性を踏まえることで自立支援につながる。

イ：残存能力や代替方法を検討せずに全面代行するのは過介助になり得る。

ウ：麻痺が具体的にどの生活にどう影響しているかを明らかにする必要がある。

エ：本人が日常で身につけた工夫は重要な情報である。

総合解説：生活課題は「できないことの一覧」ではなく、本人が望む生活と強みを踏まえて解決可能な形に整理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0038

アセスメント・課題分析 > ニーズ・優先順位 | 難易度：標準

本人は「自宅で暮らし続けたい」と希望しているが、家族は施設入所を望んでいる。介護過程での対応として最も適切なのはどれか。

ア：家族の希望を優先して、本人への確認は終了する。

イ：本人と家族それぞれの意向と背景、介護負担、安全面、利用可能な支援を整理し、本人の意思を中心に検討する。

ウ：本人の希望だけを聞き、家族の介護負担は情報として扱わない。

エ：意向が一致しないため、介護計画を作成しない。

答え・解説

正答：イ

ア：本人の意思を中心に支援を検討する必要がある。

イ：意向の不一致を単純な対立として扱わず、背景情報と社会資源を含めて本人の望む生活の実現可能性を検討する。

ウ：在宅生活の実現には家族の状況や支援可能性も重要な情報である。

エ：不一致を含めて課題を整理し、調整可能な支援方法を検討する。

総合解説：本人主体を守りながら、家族の状況や利用できる支援も分析することが現実的な計画につながる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0039

アセスメント・課題分析 > ニーズ・優先順位 | 難易度：応用

デイサービスで利用者が毎回「帰る」と繰り返し玄関へ向かう。ニーズを検討する際の対応として最も適切なのはどれか。

ア．徘徊と決めつけ、玄関へ行けないようにする。

イ．帰宅希望は実現できないので記録しない。

ウ．行動を問題と決めつけず、時間帯、環境、本人の生活歴、不安や役割意識などを確認して背景にあるニーズを探る。

エ．他の利用者にも同じ行動があるかを確認し、多数派なら問題なしとする。

答え・解説

正答：ウ

ア：行動の背景を分析せず制限するのは適切でない。

イ：本人の発言・行動は重要なアセスメント情報である。

ウ：表面的な行動だけでなく、その人にとっての意味や背景を分析することで潜在的なニーズが見えることがある。

エ：ニーズは個別に捉える必要がある。

総合解説：潜在的ニーズの把握では、行動を「問題行動」とラベリングせず、本人の経験や現在の状況と結び付けて意味を考える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0040

アセスメント・課題分析 > ニーズ・優先順位 | 難易度：応用

介護計画では「外出機会を増やすこと」を優先していたが、利用者に発熱と呼吸苦が出現した。優先順位の扱いとして最も適切なのはどれか。

ア．計画で決めた外出を予定どおり実施する。

イ．外出目標を永久に削除する。

ウ．本人に知らせず計画だけを変更する。

エ．現在の健康状態と安全を優先して必要な対応を行い、状態が落ち着いた後に外出目標を再検討する。

答え・解説

正答：エ

ア：急変時は安全確保と必要な医療連携を優先する。

イ：一時的な状態変化であり、回復後に再アセスメントして検討する。

ウ：状況に応じて本人へ説明し、意思を確認しながら見直す。

エ：優先順位は固定ではなく、急変や新たな課題が生じた場合は緊急性・安全性を踏まえて再評価する。

総合解説：介護過程では、新たな情報や状態変化に応じて優先課題を柔軟に見直す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0041

計画・実施・評価＞長期・短期目標 | 難易度：基礎

介護計画の目標の表現として、最も適切なものはどれか。

- ア．「本人が見守りを受けながら、食堂まで歩いて行ける」。
- イ．「介護職員が毎朝歩行介助をする」。
- ウ．「転倒させないように職員が注意する」。
- エ．「施設の業務を効率化する」。

答え・解説

正答：ア

ア：目標は介護職の行為ではなく、利用者の生活や行動がどうなるかを本人を主体に表現する。

イ：これは支援内容であり、利用者の目標ではない。

ウ：職員側の行動であり、本人の生活目標として表現されていない。

エ：利用者の生活課題から導かれた目標ではない。

総合解説：目標は本人の変化や望む生活が具体的に分かるように表現する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0042

計画・実施・評価＞長期・短期目標 | 難易度：基礎

短期目標として、最も適切な説明はどれか。

- ア．介護福祉職が身につけたい技術を記載する。
- イ．長期目標の達成に向けた段階として、アセスメントで明らかになった生活課題に基づき具体的に設定する。
- ウ．利用者の状態に関係なく、すべて1年後で設定する。
- エ．アセスメントとは関係なく、施設の標準目標から選ぶ。

答え・解説

正答：イ

ア：目標の主体は利用者である。

イ：短期目標は、本人の生活課題から導き、一定期間で達成状況を確認できる具体的な目標とする。

ウ：課題や見通しに応じて適切な期間を設定する。

エ：個別のアセスメントに基づいて設定する。

総合解説：直近の国家試験でも、短期目標は利用者の具体的な生活課題から検討することが問われている。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0043

計画・実施・評価＞長期・短期目標 | 難易度：標準

長期目標と短期目標の関係として、最も適切なのはどれか。

- ア．長期目標と短期目標は別々に設定し、関連を持たせない。
- イ．長期目標は職員の目標、短期目標は本人の目標と分ける。
- ウ．短期目標は長期目標の達成につながる段階的な目標として設定し、両者の整合性を確認する。
- エ．短期目標が達成しても長期目標は見直さない。

答え・解説

正答：ウ

ア：目標間のつながりが必要である。

イ：いずれも本人の生活を主体に設定する。

ウ：短期目標の積み重ねが長期的な生活目標につながるように、方向性を一致させることが重要である。

エ：達成状況や状態変化に応じて目標全体を見直す。

総合解説：目標体系は、本人が望む生活という方向に向かって段階的に設定する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0044

計画・実施・評価＞長期・短期目標 | 難易度：標準

「元気に過ごす」という目標を、評価しやすい形に修正したものとして最も適切なのはどれか。

- ア．「できるだけ元気になる」。
- イ．「職員が毎日励ます」。
- ウ．「問題なく生活する」。
- エ．「2週間後までに、昼食後に職員と中庭を10分程度散歩する日を週3回持てる」。

答え・解説

正答：エ

ア：具体性が乏しく、達成状況を評価しにくい。

イ：支援内容であり、本人の目標ではない。

ウ：何をもちて達成とするか不明確である。

エ：具体的な行動、条件、期間などを示すと、達成状況を客観的に確認しやすい。

総合解説：目標は本人にとって意味があり、かつチームで達成状況を確認できる具体性を持たせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0045

計画・実施・評価＞長期・短期目標 | 難易度：標準

介護目標に達成時期や評価時期を設定する主な理由として、最も適切なのはどれか。

- ア．一定期間後に達成状況を確認し、支援方法や目標の見直しが必要か判断しやすくするため。
- イ．期限が来るまで状態変化を確認しなくてよくするため。
- ウ．期間内に達成しなければ本人の努力不足と判断するため。
- エ．職員の勤務表に合わせるためだけに設定する。

答え・解説

正答：ア

ア：期限や評価時期を設定することで、目標達成の見通しと評価のタイミングが明確になる。

イ：状態変化は随時観察し、必要時に見直す。

ウ：未達成の要因は支援方法や環境等を含めて分析する。

エ：期間は本人の状態や目標の性質に応じて設定する。

総合解説：目標の期間は評価を可能にするための基準であり、本人を追い立てるための期限ではない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0046

計画・実施・評価＞長期・短期目標 | 難易度：標準

次のうち、介護計画の「支援内容」ではなく「短期目標」に当たるものはどれか。

- ア．「移乗時に職員が左側から見守る」。
- イ．「1か月以内に、手すりを使用して自分で便座へ移乗できる」。
- ウ．「トイレ内の手すり位置を調整する」。
- エ．「毎回、移乗前に足位置を確認するよう声をかける」。

答え・解説

正答：イ

ア：具体的な支援方法である。

イ：本人の到達したい状態を具体的に示しており、短期目標として適切である。

ウ：環境調整という支援内容である。

エ：介護職が行う具体的援助である。

総合解説：目標と援助内容を区別し、援助がどの目標達成に結び付くかを明確にすることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0047

計画・実施・評価 > 長期・短期目標 | 難易度：応用

短期目標を予定より早く達成した場合の対応として、最も適切なのはどれか。

- ア．計画期間が終わるまで同じ支援を変更せず続ける。
- イ．達成したので記録を終了し、本人には伝えない。
- ウ．達成状況と本人の希望を確認し、長期目標との関係を踏まえて次の目標や支援内容を再検討する。
- エ．目標達成は職員の成果なので、次の目標は職員だけで決める。

答え・解説

正答：ウ

ア：達成後は支援量の調整や次の目標を検討する。

イ：達成を本人と共有し、次の希望を確認することが重要である。

ウ：目標達成は介護過程の終点ではなく、本人の生活の広がりや次の課題を再アセスメントする機会である。

エ：本人主体で次の目標を検討する。

総合解説：達成・未達成のどちらでも、その結果を次のアセスメントと計画に反映することが介護過程の循環性である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0048

計画・実施・評価 > 介護計画・実施・観察 | 難易度：基礎

介護計画の支援内容として、最も適切なのはどれか。

- ア．「適切に介助する」とだけ記載する。
- イ．職員ごとに好きな方法で介助することを記載する。
- ウ．本人ができる部分もすべて職員が行うよう記載する。
- エ．誰が見ても同じ支援を実施できるよう、方法・留意点・本人が行う部分などを具体的に記載する。

答え・解説

正答：エ

ア：方法が曖昧で、職員間で支援が統一しにくい。

イ：個別計画に沿った一貫した支援が必要である。

ウ：自立支援の観点から本人の能力を活用する。

エ：介護計画は、支援の目的と方法がチームで共有でき、本人の能力を生かせる具体性が必要である。

総合解説：計画には、目標達成に必要な援助を具体化し、支援の根拠と本人の役割が分かるようにする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0049

計画・実施・評価 > 介護計画・実施・観察 | 難易度：基礎

介護計画に基づく支援を開始するときの対応として、最も適切なのはどれか。

- ア．支援内容を本人に分かりやすく説明し、意向や同意を確認して実施する。
- イ．計画書が作成済みなら本人への説明は不要である。
- ウ．家族が同意していれば本人には知らせなくてよい。
- エ．職員が必要と判断した支援は、本人が拒否しても必ず実施する。

答え・解説

正答：ア

ア：利用者は支援の主体であり、計画の内容を共有し本人の意思を確認して実施することが基本である。

イ：計画があっても本人への説明と意思確認が必要である。

ウ：本人の意思を可能な限り確認する。

エ：拒否の理由を確認し、緊急性や安全性を踏まえて再検討する。

総合解説：計画は支援者の指示書ではなく、本人と共有しながら実践するためのものと捉える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0050

計画・実施・評価 > 介護計画・実施・観察 | 難易度：標準

介護計画の実施中に観察を行う目的として、最も適切なのはどれか。

- ア．計画どおりに実施した証拠を残すためだけに行う。
- イ．本人の反応や状態変化、支援の効果・負担を確認し、必要な調整や評価につなげるため。
- ウ．本人の発言より職員の予想を優先するために行う。
- エ．評価日まで計画を変更しないために行う。

答え・解説

正答：イ

ア：観察は本人の状態と支援効果を把握するために行う。

イ：介護実践は計画どおりに動作を行うだけでなく、本人の反応を観察して適切性を確かめながら行う。

ウ：本人の発言も重要な観察情報である。

エ：変化があれば必要に応じて早期に見直す。

総合解説：観察は、実施と評価をつなぐ重要な行為であり、支援前・中・後の変化を捉える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0051

計画・実施・評価 > 介護計画・実施・観察 | 難易度：標準

入浴介助中、利用者が突然「胸が苦しい」と訴え、顔色が悪くなった。最も適切な対応はどれか。

- ア．入浴計画を完了するまで介助を続ける。
- イ．本人が我慢できると言えば観察せず続ける。
- ウ．入浴を中止して安全を確保し、状態を観察しながら看護職等へ速やかに報告する。
- エ．記録は評価日にまとめて行えばよいので、その場では報告しない。

答え・解説

正答：ウ

ア：急変時は計画より安全確保を優先する。

イ：症状がある場合は客観的観察と必要な連携が必要である。

ウ：計画は状況に応じて安全に実施するものであり、急変時は予定を優先せず中止・報告・連携を行う。

エ：急変情報は速やかに共有する必要がある。

総合解説：介護計画は固定的な手順ではなく、本人の状態に応じて安全性を判断しながら実施する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0052

計画・実施・評価 > 介護計画・実施・観察 | 難易度：標準

利用者が予定していた歩行練習を「今日は疲れているので休みたい」と話した。介護福祉職の対応として最も適切なのはどれか。

- ア．計画に記載されているため、本人が拒否しても実施する。
- イ．一度拒否したので歩行目標を永久に削除する。
- ウ．実施しなかったことは記録しない。
- エ．本人の体調と希望を確認し、理由を記録して必要に応じて方法や時期を調整する。

答え・解説

正答：エ

ア：本人の意思や体調を無視した実施は適切でない。

イ：一時的な体調か、目標自体の見直しが必要かをアセスメントする。

ウ：未実施の理由も経過や評価に重要な情報となる。

エ：計画の実施は本人の状態や意思を踏まえて柔軟に調整し、その判断を記録・共有する。

総合解説：計画の目的は予定を消化することではなく、本人の目標実現に最も適切な支援を行うことである。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0053

計画・実施・評価 > 介護計画・実施・観察 | 難易度：応用

多職種が関わる利用者の介護計画を実施する際の対応として、最も適切なのはどれか。

- ア．本人の目標、各職種の役割、観察すべき点を共有し、情報の変化を相互に伝える。
- イ．全職種が同じ介助を行うよう職種の役割をなくす。
- ウ．介護福祉職が他職種の計画を独自に変更する。
- エ．情報が多いと混乱するため、状態変化は担当者だけで把握する。

答え・解説

正答：ア

ア：計画の実施では、多職種の専門性と役割を尊重しながら、共通目標に向けて情報を共有する。

イ：専門職ごとの役割と責任を踏まえて協働する。

ウ：必要な変更はチームで共有・検討する。

エ：状態変化は必要な範囲でチームに共有する。

総合解説：チーム実践では「同じことをする」のではなく、「同じ目標を共有して役割を果たす」ことが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0054

計画・実施・評価 > 介護計画・実施・観察 | 難易度：応用

安全な介助手順の標準化と個別介護計画の関係として、最も適切なのはどれか。

- ア．標準手順があれば個別介護計画は不要である。
- イ．基本的な安全手順を踏まえつつ、本人の身体機能、習慣、希望、環境に合わせて具体的方法を調整する。
- ウ．個別性を尊重するため、安全手順は守らなくてよい。
- エ．本人の希望があれば、専門的に危険な方法でもそのまま実施する。

答え・解説

正答：イ

ア：標準手順だけでは本人固有の目標や能力、環境を反映できない。

イ：安全上の共通原則を守りながら、個人差に応じて支援方法を具体化することが必要である。

ウ：個別性と安全性の両方を満たす必要がある。

エ：希望を尊重しつつ、危険性を説明して代替方法を一緒に検討する。

総合解説：標準化は最低限の安全・質を支え、個別計画は本人に合う形へ具体化する。両者は相補的である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0055

計画・実施・評価＞評価・モニタリング・記録 | 難易度：基礎

介護過程の評価として、最も適切なのはどれか。

- ア．計画どおりに職員が実施したかだけを確認する。
- イ．本人の状態が変化しても、目標は評価しない。
- ウ．設定した目標の達成状況と、実施した支援の適切性・効果を確認する。
- エ．職員の満足度だけで支援効果を判断する。

答え・解説

正答：ウ

ア：実施状況に加え、本人の変化や目標達成を評価する。

イ：状態変化も含めて目標や計画の妥当性を再検討する。

ウ：評価では、本人の目標がどこまで達成されたかと、計画・支援方法が妥当だったかの両方を検討する。

エ：評価の中心は利用者の生活と目標の達成状況である。

総合解説：「計画を実施したか」と「その結果、本人の生活にどんな変化があったか」を区別して評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0056

計画・実施・評価＞評価・モニタリング・記録 | 難易度：基礎

介護過程におけるモニタリングとして、最も適切なものはどれか。

- ア．計画終了日にだけ状態を確認する。
- イ．支援内容が予定どおりなら本人の反応は確認しない。
- ウ．変化があっても次回の定期評価までは計画を修正しない。
- エ．支援の実施中も本人の状態、反応、目標への進み方を継続して確認する。

答え・解説

正答：エ

ア：支援中も継続的に確認する必要がある。

イ：本人の反応や効果を確認することが重要である。

ウ：重大な変化があれば必要に応じて早期に見直す。

エ：モニタリングは計画期間の途中で支援の経過を把握し、必要な見直しにつなげるために行う。

総合解説：日々の観察と記録がモニタリングの基盤となり、評価や再アセスメントへつながる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0057

計画・実施・評価＞評価・モニタリング・記録 | 難易度：標準

短期目標が達成できなかった場合の評価として、最も適切なのはどれか。

- ア．本人の状態、目標設定、支援方法、環境などを検討し、未達成の要因を分析する。
- イ．本人の意欲不足と記録して同じ計画を継続する。
- ウ．目標を削除し、評価を終了する。
- エ．介護職員の実施回数だけを増やす。

答え・解説

正答：ア

ア：未達成を本人の努力不足と決めつけず、アセスメントや計画そのものの妥当性を含めて検討する。
イ：原因を単純化せず、支援方法や環境等を含めて分析する。
ウ：未達成理由を確認して再アセスメントにつなげる。
エ：支援量を増やす前に、目標や方法の適切性を検討する。
総合解説：評価は合否判定ではなく、次の支援をより適切にするための検証である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0058

計画・実施・評価＞評価・モニタリング・記録 | 難易度：標準

介護記録として、最も適切なのはどれか。

- ア．「今日は具合が悪そうだった」とだけ記録する。
- イ．「14時、本人が『息苦しい』と訴え、呼吸数28回/分。椅子で安静とし看護職へ報告した」と記録する。
- ウ．「きっと肺炎だと思う」と介護職の診断を書く。
- エ．「いつも通り」とだけ記録する。

答え・解説

正答：イ

ア：具体的な事実が不足しており、状態を共有しにくい。
イ：時刻、本人の訴え、観察した事実、行った対応を具体的に記録すると経過が共有しやすい。
ウ：診断を断定せず、観察事実と報告内容を記録する。
エ：評価や比較に必要な具体性がない。
総合解説：記録は、支援の継続性、安全性、評価の根拠になるため、事実を具体的かつ適時に残す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0059

計画・実施・評価＞評価・モニタリング・記録 | 難易度：標準

評価の結果、目標は一部達成したが、新たに夜間の不安が強くなっていることが分かった。次の対応として最も適切なものはどれか。

- ア．当初の目標が一部達成しているため、新たな不安は扱わない。
- イ．評価結果は記録するだけで計画には反映しない。
- ウ．新たな情報を含めて再アセスメントし、必要に応じて目標や支援内容を見直す。
- エ．夜間不安は本人の性格と決めつけ、追加情報は集めない。

答え・解説

正答：ウ

ア：新たな生活課題として検討する必要がある。

イ：評価は計画改善につなげるために行う。

ウ：評価で明らかになった変化は、次のアセスメントと計画修正に反映する。

エ：背景や誘因を再アセスメントする必要がある。

総合解説：介護過程は、評価結果を次の情報収集・アセスメントへ戻すことで継続的に改善される。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0060

計画・実施・評価＞評価・モニタリング・記録 | 難易度：応用

「食堂で自分で食事を続ける」という短期目標に対し、最近3日間は食事途中で疲れ、摂取量が減っている。介護福祉職の対応として最も適切なものはどれか。

- ア．目標達成を優先し、疲れていても最後まで自力摂取を続けてもらう。
- イ．摂取量低下は本人の意欲の問題と決め、記録しない。
- ウ．計画を変更せず、次回の月例会議まで情報共有を待つ。
- エ．摂取量、姿勢、疲労の出現時点、本人の訴えなどを具体的に記録し、チームで共有して原因と支援方法を再評価する。

答え・解説

正答：エ

ア：目標は本人の安全・安楽を損なってまで達成させるものではない。

イ：原因を決めつけず、身体状況や環境などを含めて評価する。

ウ：状態変化が続いているため、早期に共有し必要な調整を行う。

エ：目標未達成の兆候があるときは、客観的な経過を集め、本人の状態と計画の適切性をチームで再検討する。

総合解説：モニタリングでは、具体的な記録を根拠に目標・支援方法の妥当性を検討し、再アセスメントへつなげる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0061

総合事例（高齢・認知症）> 高齢者の生活支援事例 | 難易度：基礎

82歳のAさんは、トイレから立ち上がった直後に「ふらふらする」と訴え、壁につかまった。介護福祉職の初期対応として最も適切なものはどれか。

ア．転倒しないよう安全な姿勢を確保して座ってもらい、意識・顔色・訴えなどを確認して必要に応じ看護職へ報告する。

イ．「高齢者にはよくあること」として、そのまま歩いて居室へ戻ってもらう。

ウ．すぐに水を大量に飲ませれば改善すると判断する。

エ．本人が休みたくないと言え、状態確認をせず活動を続ける。

答え・解説

正答：ア

ア：まず転倒防止と状態確認を優先し、急な体調変化として連携するのが適切である。

イ：めまい・ふらつき時の歩行継続は転倒につながるため不適切である。

ウ：原因を確認せず大量の飲水を勧めるのは適切でない。

エ：自己決定は尊重するが、急変時は安全確保と状態確認が必要である。

総合解説：高齢者の生活支援では、本人の希望を尊重しつつも、急なふらつき等では転倒防止と状態把握を優先し、必要な職種へ連携する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0062

総合事例（高齢・認知症）> 高齢者の生活支援事例 | 難易度：基礎

右手に軽い麻痺があるAさんは、時間はかかるが左手で自分で食事をしたいと話している。介護福祉職の支援として最も適切なものはどれか。

ア．時間短縮のため、最初から最後まで全介助する。

イ．食器の位置や滑り止め等を調整し、本人ができる動作は見守りながら必要な部分だけ支援する。

ウ．麻痺があるため自力摂取は禁止する。

エ．本人の希望より職員の業務手順を優先する。

答え・解説

正答：イ

ア：本人が可能な動作まで代行すると自立支援にならない。

イ：残存能力を活かし、環境調整と部分的支援で本人の自己効力感と自立を支える。

ウ：麻痺の存在だけで自力摂取を一律に禁止するのは不適切である。

エ：利用者主体の支援では、業務都合より本人の希望と能力を重視する。

総合解説：生活支援では「できること」を評価し、福祉用具や環境調整を用いて本人主体の活動を支える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0063

総合事例（高齢・認知症）> 高齢者の生活支援事例 | 難易度：基礎

夜間に何度も目を覚ますAさんについて、昼間は居室でとうとうとする時間が増えている。介護福祉職の対応として最も適切なのはどれか。

ア．夜に眠れるよう、日中は一切休ませない。

イ．本人の訴えを確認せず、睡眠薬の増量を介護福祉職が決める。

ウ．日中の活動量、昼寝、排尿、痛み、環境など睡眠に影響する要因を確認し、生活リズムをチームで調整する。

エ．夜間覚醒は高齢者なら仕方ないとして記録しない。

答え・解説

正答：ウ

ア：必要な休息まで禁止すると疲労や体調悪化を招く。

イ：薬剤調整は介護福祉職が独自に決定する事項ではない。

ウ：睡眠の問題は生活全体の要因を評価し、原因に応じて支援を調整する。

エ：変化を記録し要因を検討することが必要である。

総合解説：睡眠・休息の支援では、生活リズム、排泄、疼痛、環境等を総合的に観察し、非薬物的調整も含めて検討する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0064

総合事例（高齢・認知症）> 高齢者の生活支援事例 | 難易度：標準

Aさんは浴槽へのまたぎ動作に不安があり、最近入浴を断ることが増えた。最も適切な支援はどれか。

ア．清潔保持のため、本人の意思にかかわらず入浴させる。

イ．入浴を断った日は清潔ケアを一切行わない。

ウ．転倒が怖いので、今後は浴室を使わせない。

エ．不安の理由と本人の希望を確認し、シャワーチェアや手すり等の活用、介助方法を検討して安心できる方法を一緒に選ぶ。

答え・解説

正答：エ

ア：強制は尊厳・自己決定を損ない、信頼関係も損なう。

イ：入浴以外にも清拭等の代替方法を検討できる。

ウ：一律禁止ではなくリスクを評価し環境や方法を調整する。

エ：拒否の背景を把握し、環境調整と選択肢提示で本人が納得できる方法を探る。

総合解説：利用者主体の生活支援では、拒否を問題行動とせず背景を確認し、福祉用具・環境・介助方法を調整する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0065

総合事例（高齢・認知症）> 高齢者の生活支援事例 | 難易度：標準

活動量が低下したAさんは、3日間排便がなく腹部の張りを訴えている。介護福祉職の対応として最も適切なのはどれか。

ア．普段の排便状況、食事・水分・活動量、腹痛や嘔吐の有無を確認し、記録して必要に応じ医療職へ相談する。

イ．排便がない日数だけで介護福祉職が下剤の追加を決める。

ウ．腹部の張りがあっても、食事量を増やせばよいと判断する。

エ．本人が排便の話を嫌がるため、観察や記録を行わない。

答え・解説

正答：ア

ア：便秘は生活要因と身体症状を併せて把握し、異常兆候があれば医療職へつなぐ。

イ：薬剤の追加・調整を介護福祉職が独自に行うのは不適切である。

ウ：腹部症状があるため、原因や重症度を確認せず食事量を増やすべきではない。

エ：プライバシーに配慮しつつ、健康管理に必要な情報は適切に確認する。

総合解説：排泄支援では、本人の通常状態との比較、生活要因、腹部症状等を具体的に把握し、必要時は医療職と連携する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0066

総合事例（高齢・認知症）> 高齢者の生活支援事例 | 難易度：標準

難聴のあるAさんとの会話で、内容が伝わりにくい。介護福祉職の工夫として最も適切なのはどれか。

ア．聞こえないため、本人には話しかけず家族だけに説明する。

イ．正面から口元が見える位置で、周囲の雑音を減らし、短く分かりやすく話して理解を確認する。

ウ．できるだけ大声で早口に話す。

エ．理解できたか確認せず、一度説明したら終了する。

答え・解説

正答：イ

ア：本人への直接的な情報提供と意思確認を省くのは不適切である。

イ：視覚情報と静かな環境を活用し、理解確認を行うことが有効である。

ウ：大声や早口はかえって聞き取りにくくなることもある。

エ：伝達内容が理解されたか確認することが重要である。

総合解説：感覚機能の変化がある高齢者には、環境調整、伝え方の工夫、理解確認を組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0067

総合事例（高齢・認知症）> 高齢者の生活支援事例 | 難易度：標準

視力が低下しているAさんの居室で、職員が安全のため家具の配置を頻繁に変更している。Aさんは物にぶつかることが増えた。改善策として最も適切なのはどれか。

ア．本人が慣れるまで毎日配置を変えて訓練する。

イ．すべての移動を車いす介助に変更する。

ウ．本人が把握している動線を尊重して配置をできるだけ一定にし、必要な場所はコントラストや声かけ等で分かりやすくする。

エ．ぶつかるのは注意力の問題なので環境は変えない。

答え・解説

正答：ウ

ア：頻繁な変更は見当をつけにくくし、衝突や転倒リスクを高める。

イ：本人の歩行能力を評価せず一律に代替するのは自立支援に反する。

ウ：視覚情報が低下している場合、環境の一貫性と他感覚を使った手がかりが安全につながる。

エ：視力低下と環境要因を考慮する必要がある。

総合解説：視覚機能が低下した人の生活環境では、本人の慣れた配置、一貫した動線、分かりやすい手がかりを用いて安全と自立を両立する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0068

総合事例（高齢・認知症）> 高齢者の生活支援事例 | 難易度：標準

肺炎で入院後に退院したAさんは、以前より歩行距離が短くなり「また自分で近所へ買い物に行きたい」と話している。支援として最も適切なのはどれか。

ア．再入院予防のため外出を禁止する。

イ．退院前と同じ距離をすぐ歩くよう促す。

ウ．本人の希望は現実的でないとして介護計画から外す。

エ．現在の体力・歩行能力と本人の目標を確認し、リハビリ職等と連携して段階的な活動目標を設定する。

答え・解説

正答：エ

ア：安全配慮は必要だが、一律の外出禁止は活動・参加の機会を奪う。

イ：現在の能力を評価せず過負荷をかけるのは危険である。

ウ：本人の希望を起点に実現可能な方法を検討するのが介護過程である。

エ：退院後の機能変化を評価し、本人の生活目標に沿って段階的に支援する。

総合解説：退院後は生活機能の再評価を行い、本人の望む生活为目标に、リハビリ職等と連携して無理のない段階的支援を行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0069

総合事例（高齢・認知症）> 高齢者の生活支援事例 | 難易度：応用

尿意切迫があるAさんが「失敗したくないから水分をほとんど飲まない」と話している。最も適切な対応はどれか。

ア．排尿パターンや移動能力、トイレまでの動線を確認し、適切な水分摂取を保ちながら早めの誘導や環境調整を検討する。

イ．失禁を防ぐため、本人の希望どおり水分をさらに制限する。

ウ．日中はおむつを常用し、トイレへ行かないようにする。

エ．尿意切迫は高齢者では普通なので支援の対象にしない。

答え・解説

正答：ア

ア：失禁予防のための過度な水分制限ではなく、排尿パターンと環境に合わせた支援を行う。

イ：過度の水分制限は脱水等のリスクを高める。

ウ：能力を評価せずおむつに依存すると自立を妨げる。

エ：生活への影響があるため、原因と支援方法を検討する必要がある。

総合解説：排泄支援では、水分制限で問題を隠すのではなく、排尿パターン、動作、環境を評価して本人の生活を支える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0070

総合事例（高齢・認知症）> 高齢者の生活支援事例 | 難易度：応用

長年連れ添った配偶者を亡くしたAさんは「何をしても楽しくない」と話し、食事も減っている。介護福祉職の対応として最も適切なのはどれか。

ア．早く忘れるよう、配偶者の話題を出さないようにする。

イ．悲嘆の気持ちを受け止め、生活や食事の変化を観察し、本人の希望に応じて家族・医療職・地域の支援につなぐ。

ウ．気分転換のため、本人が望まなくても集団活動へ毎日参加させる。

エ．高齢者の食欲低下は自然な変化として記録しない。

答え・解説

正答：イ

ア：悲嘆の表現を抑えるのではなく、本人のペースで語れるよう支える。

イ：悲嘆を尊重しつつ、心身の変化を把握し、必要な支援へつなぐことが重要である。

ウ：本人の意思を無視した強制は適切でない。

エ：食事量の低下は身体・心理両面の重要な変化として観察する。

総合解説：喪失後の支援では、悲嘆を否定せず、本人の語りとペースを尊重しながら、食欲や活動性等の変化を継続的に観察する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0071

総合事例（高齢・認知症）> 認知症・家族支援事例 | 難易度：基礎

認知症のAさんが夕方になると「家に帰らなければ」と繰り返し玄関へ向かう。施設職員の対応として最も適切なものはどれか。

ア．ここが家ではないと何度も強く訂正する。

イ．外へ出ないように玄関を常時施錠し、説明しない。

ウ．「帰りたい」という言葉の背景にある不安や生活歴を確認し、安全を確保しながら安心できる声かけや活動を検討する。

エ．認知症の症状なので対応しても無意味と考える。

答え・解説

正答：ウ

ア：事実を繰り返し突きつけると不安や混乱を強めることがある。

イ：行動制限を先に行うのではなく、背景評価と代替策を検討する。

ウ：行動の背景にある意味・感情を理解し、本人中心に環境と関わりを調整する。

エ：BPSDには本人の不安、環境、身体状況等が影響するため支援可能である。

総合解説：認知症ケアでは、表面の行動を抑えるのではなく、本人の感情、生活歴、環境要因を理解し、安心と安全を両立する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0072

総合事例（高齢・認知症）> 認知症・家族支援事例 | 難易度：基礎

認知症の母を在宅で介護する娘が「夜も眠れず、もう限界です」と涙を流した。介護福祉職の対応として最も適切なものはどれか。

ア．介護は家族の役割なので、もう少し頑張るよう励ます。

イ．母をすぐ施設へ入所させることだけを勧める。

ウ．家族の悩みは介護計画と関係ないので記録しない。

エ．娘の負担と困りごとを具体的に聴き、本人の支援と合わせてレスパイトや相談機関など利用可能な支援をチームで検討する。

答え・解説

正答：エ

ア：家族の負担を軽視し過重な介護継続を求めるのは不適切である。

イ：選択肢を一つに限定せず、本人・家族の希望と状況から検討する。

ウ：家族の介護力・負担は在宅生活を支える重要な情報である。

エ：家族介護者の負担を評価し、本人と家族双方を支える地域資源につなぐ。

総合解説：認知症の家族支援では、介護負担を具体的に把握し、相談、レスパイト、地域支援等を組み合わせて孤立を防ぐ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0073

総合事例（高齢・認知症）＞認知症・家族支援事例 | 難易度：基礎

認知症のAさんが施設内を繰り返し歩き回る。転倒歴はない。職員の対応として最も適切なのはどれか。

ア．歩く目的や時間帯、疲労、排泄、環境などを観察し、安全に歩ける動線を確保して必要な見守りを行う。

イ．歩き回る行為をなくすため、日中は椅子から立たないようにする。

ウ．転倒予防のため、常時車いすに座ってもらう。

エ．本人が歩くたびに大声で制止する。

答え・解説

正答：ア

ア：徘徊とラベルづけして止めるのではなく、行動の意味とリスクを評価する。

イ：活動制限は廃用や不安の増大につながり得る。

ウ：転倒歴もなく能力評価なしに移動を制限するのは不適切である。

エ：強い制止は不安や興奮を高めることがある。

総合解説：認知症の移動行動では、目的・誘因を観察し、本人の活動を尊重しながら安全な環境と見守りを整える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0074

総合事例（高齢・認知症）＞認知症・家族支援事例 | 難易度：標準

認知症のAさんが入浴の誘いに「嫌だ」と強く拒否するようになった。最も適切な対応はどれか。

ア．清潔保持が必要なので複数職員で入浴させる。

イ．拒否する時間帯、寒さ、羞恥心、痛み、職員との関係などを確認し、本人が受け入れやすい方法や時間を選ぶ。

ウ．拒否は認知症によるものなので理由を尋ねない。

エ．今後は入浴を勧めず清潔ケアを中止する。

答え・解説

正答：イ

ア：強制的な介助は尊厳を損ない、不安や抵抗を強める。

イ：拒否の背景を多面的に評価し、本人の選択が可能な状況を整える。

ウ：認知症があっても本人の感情や理由を理解する努力が必要である。

エ：代替方法やタイミングの調整などを検討すべきである。

総合解説：認知症のケア拒否では、身体状況、環境、心理、関係性を評価し、本人が安心して選べる条件を整える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0075

総合事例（高齢・認知症）＞認知症・家族支援事例 | 難易度：標準

Aさんが「財布を職員に盗まれた」と訴えて強い不安を示している。財布は後で衣類の中から見つかった。最も適切な関わりはどれか。

ア．「あなたの勘違いです」とその場で論破する。

イ．訴えが出るたびに本人の所持品を取り上げて管理する。

ウ．「盗まれて心配だったのですね」と不安に寄り添い、一緒に確認し、物の置き場所を分かりやすくする方法を検討する。

エ．職員への疑いなので本人との会話を避ける。

答え・解説

正答：ウ

ア：論破は不安や不信感を強めることがある。

イ：必要性のない管理は自己決定や所有の自由を制限する。

ウ：事実関係だけを争わず、本人の不安を受け止めて再発しにくい環境を整える。

エ：関係を避けるのではなく安心できる関わりを継続する。

総合解説：物盗られの訴え等では、本人の感情を受容し、生活環境や記憶を補う工夫を行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0076

総合事例（高齢・認知症）＞認知症・家族支援事例 | 難易度：標準

認知症のAさんは昼間に長時間眠り、夜間に起きて廊下を歩くことが増えた。支援として最も適切なのはどれか。

ア．夜間に眠るよう日中は一切座らせない。

イ．夜間に歩くのでベッドから起きられないよう柵で囲む。

ウ．認知症の進行なので生活リズムは変えられないと考える。

エ．日中の活動、昼寝、排泄、疼痛、光環境などを確認し、生活リズムを整える支援を行う。

答え・解説

正答：エ

ア：過度の活動強制は疲労・転倒につながる。

イ：安易な行動制限は避け、原因と代替策を検討する。

ウ：環境や日中活動の調整で改善できる要因がある。

エ：睡眠覚醒リズムは生活・環境・身体要因の影響を受けるため総合的に調整する。

総合解説：認知症の昼夜逆転では、日中活動、光、排泄、痛み、環境などを確認し、非薬物的な生活調整を優先する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0077

総合事例（高齢・認知症）＞認知症・家族支援事例 | 難易度：標準

軽度の認知症があるAさんに、昨日から急に見当識の悪化と幻視が出現し、発熱もある。介護福祉職の判断として最も適切なのはどれか。

- ア．認知症の進行と決めつけず、せん妄など急性変化の可能性を考えて速やかに医療職へ報告する。
- イ．認知症ではよくあるため翌月の定期受診まで待つ。
- ウ．幻視を否定するため繰り返し現実を説明する。
- エ．落ち着くまで一人で静かな部屋に閉じ込める。

答え・解説

正答：ア

ア：急激な認知・意識の変化と発熱は身体疾患等によるせん妄を疑い医療評価につなぐ。

イ：急性変化を放置するのは危険である。

ウ：原因評価が優先で、強い否定は不安を増すことがある。

エ：安全確保は必要だが、隔離だけで原因評価を遅らせてはならない。

総合解説：せん妄は急性に出現・変動することがあり、感染や脱水等の身体要因が背景にあるため早期の医療連携が必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0078

総合事例（高齢・認知症）＞認知症・家族支援事例 | 難易度：標準

認知症のAさんが新しいデイサービス利用について「行ってみたい」と話す一方、家族は「本人には決められない」と反対している。介護福祉職の対応として最も適切なのはどれか。

- ア．認知症なので家族の意向のみで決める。
- イ．本人に分かりやすい方法でサービス内容を説明し、本人の意思と選好を確認しながら家族を含めて支援方法を検討する。
- ウ．本人の希望だけでリスクや家族状況を検討せず即日決定する。
- エ．家族と意見が違うため介護福祉職は関与しない。

答え・解説

正答：イ

ア：認知症があっても本人の意思決定支援が原則である。

イ：認知症の診断だけで意思決定能力を否定せず、本人が決められるよう支援する。

ウ：本人の意思を中心にしつつ必要な情報提供や支援条件の調整も行う。

エ：意思決定を支えるため、関係者間の情報共有と調整が必要である。

総合解説：認知症の意思決定支援は、本人が自ら決められるよう情報提供・環境調整を行い、意思・選好を中心に支援する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0079

総合事例（高齢・認知症）＞認知症・家族支援事例 | 難易度：応用

認知症のAさんは食事中に注意がそれて箸が止まり、摂取量が減っている。嚥下障害は指摘されていない。支援として最も適切なものはどれか。

ア．食事時間を短縮するため、すべて口へ運ぶ。

イ．食べないのは意欲がないためと判断し食事を下げる。

ウ．食卓上の物を整理し、落ち着いた環境で一つずつ分かりやすく促し、本人のペースで食べられるようにする。

エ．テレビを大きな音でつけて注意を引く。

答え・解説

正答：ウ

ア：本人の可能な動作を奪い、摂食の主体性を低下させる。

イ：環境や認知機能の影響を評価する必要がある。

ウ：注意を向けやすい環境と簡潔な手がかりにより本人の食事動作を支える。

エ：刺激を増やすと食事への注意がさらにそれることがある。

総合解説：認知症の食事支援では、刺激を減らし、分かりやすい合図と本人のペースを用いて残存能力を活かす。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0080

総合事例（高齢・認知症）＞認知症・家族支援事例 | 難易度：応用

認知症のAさんが処方薬を「これはいらない」と拒否した。家族は「食べ物に混ぜて飲ませて」と依頼している。介護福祉職の対応として最も適切なものはどれか。

ア．家族の依頼どおり、本人に知らせず毎回食事に混ぜる。

イ．一度拒否したので今後の薬をすべて中止する。

ウ．拒否は認知症の症状なので理由を確認しない。

エ．拒否の理由や理解状況を確認し、分かりやすく説明したうえで、必要に応じ医師・看護職等と服薬方法を検討する。

答え・解説

正答：エ

ア：本人の意思を無視した恒常的な隠し投薬は倫理的・安全上の問題がある。

イ：介護福祉職が独自に処方薬を中止してはならない。

ウ：拒否の背景には副作用、不快感、理解不足など様々な要因があり得る。

エ：本人の意思を確認し、薬の必要性や方法は医療職と連携して調整する。

総合解説：服薬拒否では、本人の意思と拒否理由を確認し、必要性・代替方法を医療職と共有して安全に対応する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0081

総合事例（高齢・認知症）> 介護保険・地域連携事例 | 難易度：基礎

79歳のAさんは自宅での生活に不安が増え、「介護サービスを使いたいが、何から始めればよいかわからない」と話している。まだ要介護認定を受けていない。介護福祉職の助言として最も適切なのはどれか。

ア．市区町村の介護保険担当窓口や地域包括支援センターへの相談を勧め、要介護認定や利用できる支援について確認する。

イ．本人の希望だけで訪問介護事業所に利用開始日を決めてもらう。

ウ．家族がいない場合は介護保険を利用できないと説明する。

エ．困りごとが重くなるまで相談せず様子を見るよう勧める。

答え・解説

正答：ア

ア：介護保険サービスの利用には認定等の手続が関係するため、まず公的な相談窓口につなぐのが適切である。

イ：介護保険サービスは必要な手続やケアマネジメントを経て利用するため不適切である。

ウ：家族の有無そのものは介護保険利用の可否を決める条件ではない。

エ：早期の相談により必要な制度や予防的支援につながるため、相談を先延ばしにするのは適切でない。

総合解説：介護保険や地域支援につなぐ事例では、本人の困りごとを確認したうえで、市区町村や地域包括支援センター等の正式な相談窓口へつなぐことが基本となる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0082

総合事例（高齢・認知症）> 介護保険・地域連携事例 | 難易度：基礎

脳梗塞後のBさんが退院し、自宅で訪問介護、訪問看護、通所リハビリテーションを利用することになった。退院直後の連携として最も適切なのはどれか。

ア．各職種が独自に支援し、他職種には結果を知らせない。

イ．本人の生活目標と各職種の役割、観察事項、緊急時の連絡方法を関係者で共有する。

ウ．家族だけにすべての調整を任せる。

エ．介護福祉職が医療上の方針まで単独で決定する。

答え・解説

正答：イ

ア：情報が分断されると支援の不整合や安全上の問題が生じやすい。

イ：複数サービスを利用する場合は、本人の目標を中心に役割と連絡方法を共有することが継続的な支援につながる。

ウ：家族の負担を増やすだけでなく、専門職間の連携責任を果たせない。

エ：医療上の判断は介護福祉職が単独で決めるものではなく、適切な職種と連携する必要がある。

総合解説：退院後の地域生活では、本人の望む生活を中心に、ケアマネジャー等を含む関係職種が役割・観察事項・連絡経路を共有する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0083

総合事例（高齢・認知症）> 介護保険・地域連携事例 | 難易度：基礎

要介護2のCさんは玄関の段差が大きく、外出時に転倒しそうになるが、「できれば自分の足で出入りしたい」と希望している。最も適切な支援はどれか。

ア．危険なので外出そのものを禁止する。

イ．段差は本人の注意だけで克服できるため環境調整は不要とする。

ウ．本人の動作と住環境を評価し、ケアマネジャー等と住宅改修や福祉用具を検討して本人の能力を生かす。

エ．本人の動作を見ずに介護者の都合だけで改修内容を決める。

答え・解説

正答：ウ

ア：安全確保は必要だが、本人の希望や参加を一律に制限するのは自立支援に反する。

イ：環境要因も生活機能に影響するため、住環境を含めた評価が必要である。

ウ：本人の希望と実際の動作を踏まえ、環境調整によって残存能力を生かす支援が適切である。

エ：住宅改修は本人の動作・生活目標と適合していることが重要である。

総合解説：住宅環境の課題は、本人の生活目標、実際の動作、介助状況の評価し、福祉用具・住宅改修を含めてチームで検討する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0084

総合事例（高齢・認知症）> 介護保険・地域連携事例 | 難易度：標準

訪問介護でDさんの腕に複数のあざを認めた。Dさんは小声で「息子に怒鳴られる。お金も全部持っていかれる」と話した。介護福祉職の対応として最も適切なのはどれか。

ア．家族関係の問題なので介護職は関与しない。

イ．証拠を得るため、息子をその場で強く問い詰める。

ウ．本人が話した内容を他の利用者にも共有して助言を求める。

エ．安全を確認し、本人の話と観察した事実を客観的に記録して、事業所の手順に従い市町村等への相談・通報につなげる。

答え・解説

正答：エ

ア：虐待が疑われる状況を私的な家族問題として放置するのは不適切である。

イ：本人の安全を損なう可能性があり、介護職が独自に迫るのは適切でない。

ウ：必要のない第三者への共有はプライバシー侵害となる。

エ：虐待が疑われる場合は安全確保を優先し、事実を記録して組織的に適切な相談・通報につなげる必要がある。

総合解説：虐待や権利侵害が疑われる場合、本人の安全を優先し、客観的記録と組織的な報告・相談を行う。個人で抱え込まないことが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0085

総合事例（高齢・認知症）> 介護保険・地域連携事例 | 難易度：標準

要支援1のEさんは、最近外出が減り筋力低下を気にしている。「近所の人と一緒に運動を続けられそう」と話した。支援として最も適切なものはどれか。

- ア．本人の希望と体調を確認し、地域の通いの場や介護予防活動など継続可能な社会参加につなげる。
- イ．筋力低下があるため、外出はすべて中止する。
- ウ．本人の希望に関係なく毎日同じ運動量を課す。
- エ．介護保険認定がある人は地域活動に参加できないと説明する。

答え・解説

正答：ア

ア：本人の関心と地域とのつながりを生かした活動は、介護予防と社会参加の双方に資する。

イ：活動を一律に制限すると廃用や孤立を助長する可能性がある。

ウ：介護予防も本人の意向や体調に合わせる必要がある。

エ：介護保険利用と地域活動への参加は両立し得る。

総合解説：介護予防では、身体機能だけでなく本人の役割や社会参加を重視し、地域資源を活用して継続しやすい生活を支援する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0086

総合事例（高齢・認知症）> 介護保険・地域連携事例 | 難易度：標準

認知症のFさんを在宅で介護する夫が「同じ経験の家族と話したい。自分だけではないと思いたい」と話している。紹介先として最も適切なものはどれか。

- ア．家族の悩みは家庭内で解決するよう勧める。
- イ．地域の認知症カフェや家族会など、本人・家族が交流し相談できる場を案内する。
- ウ．介護施設への入所だけを唯一の選択肢として提示する。
- エ．本人には知らせず家族だけで支援方針を決める。

答え・解説

正答：イ

ア：介護負担を家族だけに抱え込ませるのは不適切である。

イ：認知症カフェや家族会は、本人や家族の交流、情報交換、相談の機会となる地域資源である。

ウ：本人・家族の意向や地域資源を確認せず選択肢を限定するのは適切でない。

エ：認知症があっても本人の意思や選好を支援の中心に置く必要がある。

総合解説：認知症支援では本人だけでなく家族の孤立や負担にも目を向け、地域の交流・相談資源につなぐことが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0087

総合事例（高齢・認知症）＞介護保険・地域連携事例 | 難易度：標準

慢性心不全のGさんが在宅生活を続けている。最近、訪問介護時に息切れと下腿のむくみが以前より強い。最も適切な対応はどれか。

ア．医師の指示なしに利尿薬の量を増やす。

イ．高齢者にはよくあるむくみとして次回まで様子を見る。

ウ．変化の時期や程度、生活への影響を観察して記録し、決められた連絡体制に従って看護職やケアマネジャー等へ速やかに共有する。

エ．本人に水分を完全に控えるよう指示する。

答え・解説

正答：ウ

ア：介護福祉職が薬剤量を変更することはできない。

イ：以前との変化があるため、安易な経過観察のみは不適切である。

ウ：慢性疾患の悪化を疑う変化では、具体的な観察と早期共有が安全な在宅生活につながる。

エ：一律の水分制限を介護職の判断で指示することは適切でない。

総合解説：地域で療養する人の変化は、日常生活を支える介護職が早く気づくことがある。客観的に観察・記録し、医療・介護職へ適切に共有する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0088

総合事例（高齢・認知症）＞介護保険・地域連携事例 | 難易度：標準

Hさんの介護計画では週3回の通所介護が設定されているが、最近は利用後の疲労が強く翌日まで臥床することが増えた。介護福祉職の対応として最も適切なのはどれか。

ア．計画に書かれているため、本人が疲れていても必ず継続する。

イ．介護福祉職だけで通所回数をゼロに変更する。

ウ．疲労は本人の気持ちの問題と判断して記録しない。

エ．利用後の疲労や生活への影響を記録し、本人の意向を確認してケアマネジャー等と計画の再評価を検討する。

答え・解説

正答：エ

ア：計画は本人の状態に合わせて評価・修正する必要がある。

イ：サービス計画の変更は関係者と適切な手続で検討する必要がある。

ウ：生活への影響は重要なモニタリング情報であり、記録・共有が必要である。

エ：計画は固定的なものではなく、状態や生活への影響をモニタリングして必要に応じ見直す。

総合解説：介護保険サービスは、本人の状態・意向・生活への効果を継続的に評価し、必要に応じてケアマネジメントの中で見直す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0089

総合事例（高齢・認知症）> 介護保険・地域連携事例 | 難易度：応用

軽度認知症のIさんが高額な訪問販売契約を繰り返し、生活費が不足している。本人は「お金の管理が難しくなってきた」と不安を訴えた。支援として最も適切なものはどれか。

ア．本人の意思を確認し、地域包括支援センター等へ相談して消費生活相談や成年後見制度を含む権利擁護支援を検討する。

イ．本人の通帳を介護福祉職が預かり自由に管理する。

ウ．認知症があるため、すべての契約は当然に無効だと説明する。

エ．本人には何も説明せず家族に全権を委ねる。

答え・解説

正答：ア

ア：金銭管理や契約に不安がある場合は、本人の意思を尊重しつつ、権利擁護に関する専門的支援へつなぐ。

イ：正当な権限や手続なく介護職が財産を管理するのは不適切である。

ウ：認知症の診断だけで一律にすべての契約が無効になるわけではない。

エ：本人の意思・権利を無視した対応は適切でない。

総合解説：権利擁護の事例では、本人の意思を中心に、地域包括支援センター、消費生活相談、成年後見制度等の適切な社会資源を検討する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0090

総合事例（高齢・認知症）> 介護保険・地域連携事例 | 難易度：応用

一人暮らしのJさんは歩行が不安定で、地域に大雨による避難情報が出る可能性がある。災害時の地域連携として最も適切なものはどれか。

ア．避難情報が出ても本人が一人で移動できるまで待つ。

イ．平時から本人の移動能力や支援者、避難先、連絡方法を確認し、地域の支援体制とつないで早めの避難を検討する。

ウ．災害時は介護サービスの支援対象外になると説明する。

エ．本人の意思を確認せず、常に最も遠い避難所へ移す。

答え・解説

正答：イ

ア：移動に支援が必要な人では避難の遅れが危険につながる。

イ：災害対応は発災後だけでなく平時の備えが重要で、支援が必要な人ほど早期の避難準備と地域連携が必要である。

ウ：災害時にも利用者の安全を確保するための連携と事業継続が重要である。

エ：避難先や方法は安全性と本人の状況を踏まえて検討する必要がある。

総合解説：地域生活を支える介護では、災害時の安全も生活支援の一部である。本人の状態と地域の支援資源を平時から確認し、早期避難につなげる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0091

総合事例（障害・医療的ケア）> 障害者支援事例 | 難易度：基礎

脊髄損傷で車いすを使用するAさんは、「自分で料理を再開したい」と希望している。台所の作業台は高く、車いすでは奥まで手が届かない。最も適切な支援はどれか。

ア．危険があるため調理は家族だけが行うようにする。

イ．車いす利用者には調理はできないと説明する。

ウ．Aさんの調理動作を確認し、作業台の高さや配置、調理器具などを調整して本人ができる工程を増やす。

エ．環境は変えず、本人の努力で高い作業台に慣れてもらう。

答え・解説

正答：ウ

ア：安全への配慮は必要だが、本人の希望を一律に制限するのは適切でない。

イ：障害の種類だけで活動能力を決めつけるのは不適切である。

ウ：自立生活支援では、本人の希望と実際の動作を基に環境や道具を調整し、できる活動を広げることが重要である。

エ：環境因子の調整によって活動しやすくする視点が必要である。

総合解説：障害のある人への生活支援では、本人の役割や希望を中心に、福祉用具や環境調整で活動・参加を支える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0092

総合事例（障害・医療的ケア）> 障害者支援事例 | 難易度：基礎

失語症のあるBさんに、翌日の外出予定を確認することになった。Bさんは言葉が出にくい、簡単な絵や文字は理解できる。最も適切な方法はどれか。

ア．家族だけに質問し、Bさんには尋ねない。

イ．理解を促すため長い説明を一度に速く話す。

ウ．返答が遅いので、介護職が希望を推測して決める。

エ．短い言葉に加えて写真や予定表を示し、十分に待ってBさん自身の反応を確認する。

答え・解説

正答：エ

ア：本人の意思を確認する機会を奪う対応である。

イ：情報量が多く速い話し方は理解を難しくする場合がある。

ウ：返答に時間がかかっても、まず本人が表出できるよう支援する必要がある。

エ：失語症では残存する理解・表出方法を活用し、本人が答える時間を確保することが重要である。

総合解説：コミュニケーション障害があっても、本人の能力に合う方法を選び、意思表示を待つことが意思決定支援の基本である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0093

総合事例（障害・医療的ケア）＞障害者支援事例 | 難易度：基礎

知的障害のあるCさんは、グループホームへの入居を検討している。家族は「本人には難しい話なので私たちが決める」と言う。最も適切な支援はどれか。

- ア．写真や分かりやすい言葉、見学などを用いて選択肢を説明し、Cさんが希望を表せるよう支援する。
- イ．知的障害があるため本人への説明は不要とする。
- ウ．家族が希望する住居を本人に知らせず決定する。
- エ．一度迷ったら意思決定能力がないと判断する。

答え・解説

正答：ア

ア：意思決定支援では、本人が理解しやすい情報提供や体験の機会を工夫し、本人の意思・選好を把握する。

イ：障害があることだけを理由に本人を意思決定から除外してはならない。

ウ：本人中心の意思決定支援になっていない。

エ：迷いや意見の変化だけで能力がないと判断するのは不適切である。

総合解説：障害福祉の意思決定支援では、本人に分かりやすい形で情報を提供し、必要な支援を受けながら本人自身が選べるようにする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0094

総合事例（障害・医療的ケア）＞障害者支援事例 | 難易度：標準

自閉スペクトラム症のあるDさんは、予定変更があると強い不安を示すことが多い。明日の通所時間が急に変更になった。支援として最も適切なものはどれか。

- ア．驚かせないため当日まで変更を知らせない。
- イ．変更内容をできるだけ早く、見通しが持てる予定表などで具体的に伝え、落ち着ける環境も準備する。
- ウ．慣れるため毎日意図的に予定を変える。
- エ．不安を示したら叱って行動を止めさせる。

答え・解説

正答：イ

ア：直前の予期しない変更は不安を強める可能性がある。

イ：予定変更への不安が強い人には、予測可能性を高める情報提供と環境調整が有効である。

ウ：本人の特性を無視して不安を繰り返し高める方法は適切でない。

エ：行動の背景にある不安や特性を理解する支援が必要である。

総合解説：障害特性に応じた支援では、行動だけを問題視せず、本人が見通しを持ちやすい情報や環境を整える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0095

総合事例（障害・医療的ケア）＞障害者支援事例 | 難易度：標準

統合失調症のあるEさんは最近、日中も横になることが増え、活動への誘いに「疲れる」と答える。最も適切な対応はどれか。

ア．怠けていると判断して毎回活動参加を強制する。

イ．眠そうなので介護職の判断で向精神薬を中止する。

ウ．睡眠、食事、服薬状況、体調や生活リズムを観察し、本人のペースを尊重しながら必要時に医療職と連携する。

エ．精神障害が原因と決めつけ、身体的な体調変化は確認しない。

答え・解説

正答：ウ

ア：本人の状態を評価せず強制するのは不適切である。

イ：薬の中止や変更は介護職が独断で行うことではない。

ウ：活動低下には症状、薬の影響、身体状態など複数の要因があり得るため、状態を把握して連携する。

エ：身体疾患や薬剤影響なども含めて観察する必要がある。

総合解説：精神障害のある人の生活支援では、症状だけでなく身体状態、服薬、生活リズム、本人の希望を総合的にみて支援する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0096

総合事例（障害・医療的ケア）＞障害者支援事例 | 難易度：標準

高次脳機能障害のあるFさんは、予定を忘れて外出準備が間に合わないことが増えた。一方、予定表を見れば内容は理解できる。最も適切な支援はどれか。

ア．忘れるたびに叱り、注意力だけで改善させる。

イ．すべての予定管理を家族に任せ、本人には知らせない。

ウ．忘れる可能性があるため外出を禁止する。

エ．本人と相談して、目につく場所の予定表やアラーム、手順表などの代償手段を活用する。

答え・解説

正答：エ

ア：障害特性への配慮がなく、本人の自信を損ないやすい。

イ：本人の自己管理能力を生かす機会を奪う。

ウ：必要な支援を検討せず活動参加を制限するのは不適切である。

エ：記憶障害には、本人が使いやすい外的補助手段を生活の中に組み込む支援が有効である。

総合解説：高次脳機能障害では、失われた機能だけを見るのではなく、残存能力と代償手段を活用して生活上の自己管理を支える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0097

総合事例（障害・医療的ケア）＞障害者支援事例 | 難易度：標準

右片麻痺のあるGさんは更衣に時間がかかるが、「できることは自分でしたい」と話している。最も適切な介助はどれか。

- ア．Gさんが行える動作を観察し、衣服の工夫や手順を整えて難しい部分だけ介助する。
- イ．時間がかかるので毎回すべて介助する。
- ウ．麻痺側を使えないと決めつけ、本人の工夫を止める。
- エ．衣服の選択も介護職が効率だけで決める。

答え・解説

正答：ア

ア：本人ができる動作を生かし、必要な部分だけ支援することが自立支援につながる。

イ：本人が行える動作を奪い、能力の活用を妨げる。

ウ：実際の能力を確認せず一律に判断するのは不適切である。

エ：本人の好みや自己決定を尊重する必要がある。

総合解説：身体障害のある人への介護では、介助量を増やすこと自体が目的ではなく、本人の能力と選択を生かすことが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0098

総合事例（障害・医療的ケア）＞障害者支援事例 | 難易度：標準

視覚障害のあるHさんと初めて屋外を歩くことになった。介護福祉士の対応として最も適切なのはどれか。

- ア．危険防止のため、本人に確認せず腕を強く引く。
- イ．Hさんが希望する誘導方法を確認し、段差や方向など必要な環境情報を具体的に伝える。
- ウ．周囲の情報は混乱するので一切説明しない。
- エ．同行者が進路を決め、本人の希望は聞かない。

答え・解説

正答：イ

ア：本人の意思を無視した介助で、かえって不安定になることがある。

イ：視覚障害の程度や慣れた方法は個人差があるため、本人に確認しながら必要な情報を提供する。

ウ：必要な環境情報の言語化は移動の安全と主体性を支える。

エ：移動においても本人の選択を尊重する必要がある。

総合解説：感覚障害への支援では、本人が使いやすい方法を確認し、不足する情報を適切に補うことが自立と安全につながる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0099

総合事例（障害・医療的ケア）＞障害者支援事例 | 難易度：応用

聴覚障害のあるIさんがサービス担当者会議に参加する。Iさんは手話と文字表示の併用を希望している。最も適切な対応はどれか。

- ア．家族が出席するのでIさん本人には会議内容を伝えない。
- イ．全員が普段どおり早口で話し、後で要点だけ知らせる。
- ウ．Iさんの希望する手話通訳や文字表示を準備し、発言者が分かりやすい座席配置なども工夫する。
- エ．手話が文字のどちらか一方だけを介護職が選ぶ。

答え・解説

正答：ウ

ア：本人を意思決定の場から除外することになる。

イ：会議中に本人が参加し意見を述べる機会を保障できない。

ウ：本人が情報を受け取り、意見を表明できる方法を整えることが会議参加の前提となる。

エ：コミュニケーション方法は本人の希望や特性を踏まえて選ぶべきである。

総合解説：合理的配慮や意思決定支援では、本人が情報へアクセスし、対等に参加できるコミュニケーション環境を整える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0100

総合事例（障害・医療的ケア）＞障害者支援事例 | 難易度：応用

知的障害のあるJさんは現在家族と暮らしているが、「将来は一人暮らしをしたい」と話した。家族は事故を心配して反対している。最も適切な支援はどれか。

- ア．家族が反対しているため、本人の希望は取り上げない。
- イ．本人が希望したので、支援なしですぐ一人暮らしを始める。
- ウ．失敗する可能性を避けるため、現在の生活を変えないよう説得する。
- エ．Jさんの希望を具体的に確認し、必要な支援やリスク、利用できるサービスを分かりやすく説明して、体験利用なども含めて検討する。

答え・解説

正答：エ

ア：家族の意見だけで本人の意思を排除するのは不適切である。

イ：自己決定の尊重と必要な安全支援の検討は両立させる必要がある。

ウ：リスクだけを理由に選択肢を閉ざすのは自立生活支援に反する。

エ：本人の希望を出発点に、必要な支援を具体化し、段階的に経験できる機会を整えるのが意思決定支援である。

総合解説：障害者の自立生活では、本人の意思を尊重し、理解しやすい情報、体験、社会資源を用いて選択を支えることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0101

総合事例（障害・医療的ケア）＞医療的ケア・急変対応事例 | 難易度：基礎

喀痰吸引を実施する予定の利用者Kさんについて、介護福祉士が実施前に行う確認として最も適切なのはどれか。

ア．本人確認、実施指示、現在の呼吸状態や喀痰の状況を確認し、本人に説明して必要な感染対策を整える。

イ．前回と同じ利用者なので、その日の状態確認を省略する。

ウ．吸引の指示内容に関係なく、介護職が深さや時間を自由に決める。

エ．説明すると不安になるため、本人には何も伝えず開始する。

答え・解説

正答：ア

ア：医療的ケアは、対象者・指示・現在の状態を確認し、安全と感染予防を確保してから行う。

イ：状態は変化するため、実施ごとの確認が必要である。

ウ：定められた手順・指示の範囲で実施する必要がある。

エ：可能な限り本人への説明と同意・協力を得ることが重要である。

総合解説：喀痰吸引等は、法令・研修・指示に基づく医療的ケアである。実施前の本人確認、状態観察、説明、衛生管理が基本となる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0102

総合事例（障害・医療的ケア）＞医療的ケア・急変対応事例 | 難易度：基礎

介護福祉士が口腔内の喀痰吸引を行っている途中、利用者Lさんの顔色が急に悪くなり、強い苦痛を示した。最も適切な対応はどれか。

ア．予定時間まで吸引を続ければ痰が取れると考える。

イ．吸引を中止して呼吸状態や意識、顔色を確認し、手順に従って看護職等へ速やかに報告する。

ウ．原因を確認せず、すぐに再度同じ深さで吸引する。

エ．記録だけ残し、本人が落ち着けば報告しない。

答え・解説

正答：イ

ア：異常が出ている状況で継続すると状態を悪化させる危険がある。

イ：吸引中に異常が生じた場合は処置を続けず中止し、状態を評価して必要な医療連携につなげる。

ウ：状態評価をせず再実施するのは危険である。

エ：急な顔色不良や苦痛は重要な異常であり、適切な報告が必要である。

総合解説：医療的ケア中の異常では、まず処置を中止し、安全を確保して状態を観察する。異常の内容を具体的に報告し、指示を受ける。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0103

総合事例（障害・医療的ケア）＞医療的ケア・急変対応事例 | 難易度：基礎

経鼻経管栄養を行う前に、利用者Mさんのチューブの外部目盛りが前回と異なっていることに気づいた。介護福祉士の対応として最も適切なものはどれか。

- ア．外部目盛りを介護職が元の位置まで押し込んでから注入する。
- イ．本人に痛みがなければ、そのまま注入を開始する。
- ウ．注入を開始せず、医師または看護職に報告してチューブの位置確認を求める。
- エ．少量だけ注入して咳が出るか確認する。

答え・解説

正答：ウ

ア：チューブ位置を介護職が独断で調整するのは危険である。

イ：自覚症状がなくても位置異常の可能性があるため、安全確認が必要である。

ウ：経鼻経管栄養ではチューブが正確に胃内に留置されていることの確認は医師・看護職が行うため、異常時は注入しない。

エ：試験的な注入で位置確認する方法は誤嚥等の危険があり不適切である。

総合解説：経鼻経管栄養では、チューブの位置に疑いがある場合は注入を中止し、医師・看護職による確認を受ける。介護職が独自に挿入位置を調整しない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0104

総合事例（障害・医療的ケア）＞医療的ケア・急変対応事例 | 難易度：標準

胃ろうから栄養剤を注入中、利用者Nさんが突然激しく咳き込み、吐き気を訴えた。最も適切な対応はどれか。

- ア．栄養量を確保するため、速度を上げて早く注入を終える。
- イ．咳が出ている間だけ本人を仰向けにする。
- ウ．咳はよくあることとして記録せず終了する。
- エ．注入を中止し、安全な姿勢を保ちながら呼吸状態や意識を確認して、看護職等へ速やかに報告する。

答え・解説

正答：エ

ア：症状がある時に注入を継続・加速するのは危険である。

イ：嘔吐や誤嚥リスクがある状況で安易に仰向けにするのは適切でない。

ウ：注入中の異常症状は観察・報告すべき重要情報である。

エ：注入中の咳や嘔気は誤嚥等の危険を示す可能性があり、まず注入を止めて状態確認と連携を行う。

総合解説：経管栄養中に異常が生じたら注入を中止し、呼吸・意識などを観察して、あらかじめ定められた連絡体制に従う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0105

総合事例（障害・医療的ケア）＞医療的ケア・急変対応事例 | 難易度：標準

胃ろうを使用しているOさんの注入前、瘻孔周囲に昨日より強い発赤と滲出液があり、触れると痛がった。介護福祉士の対応として最も適切なものはどれか。

- ア．注入前の異常所見として記録し、看護職等へ報告して実施可否を確認する。
- イ．消毒薬を濃くして介護職の判断で塗布すればよい。
- ウ．栄養剤を入れれば治るため、観察を省略して開始する。
- エ．発赤の写真を個人のSNSで共有して意見を募る。

答え・解説

正答：ア

ア：瘻孔周囲の発赤、滲出液、疼痛などの変化は観察・報告すべき所見であり、独断で通常どおり進めない。

イ：薬剤や処置を独断で変更するのは不適切である。

ウ：局所の異常を無視して注入するのは安全上不適切である。

エ：個人情報・プライバシーの不適切な取扱いである。

総合解説：医療的ケアでは、実施前の観察で普段と異なる所見を捉えたら、客観的に記録し、必要な医療職へ報告して判断を仰ぐ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0106

総合事例（障害・医療的ケア）＞医療的ケア・急変対応事例 | 難易度：標準

経管栄養の予定時刻に、利用者Pさんが普段より反応が鈍く、呼びかけてもすぐ眠り込む。最も適切な対応はどれか。

- ア．予定を守るため、眠っている間に注入する。
- イ．経管栄養を開始せず、意識状態や呼吸などを確認して看護職等へ報告する。
- ウ．栄養不足になるため、通常より多く注入する。
- エ．食後なら問題ないと判断し、記録だけして報告しない。

答え・解説

正答：イ

ア：状態変化を無視して処置を進めるのは危険である。

イ：普段と異なる意識状態は急変の可能性があるため、予定どおりの処置を優先せず状態確認と連携を行う。

ウ：状態不良時に量を独断で増やすことは不適切である。

エ：意識状態の変化は重要な急変兆候であり報告が必要である。

総合解説：医療的ケアの実施可否は、その時点の本人の状態に左右される。普段と異なる意識・呼吸等があれば中止して報告する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0107

総合事例（障害・医療的ケア）＞医療的ケア・急変対応事例 | 難易度：標準

食事中のQさんが急に強くむせ、食後も湿った声と息苦しさが続いている。介護福祉職の初期対応として最も適切なのはどれか。

ア．飲み込みやすくするため水を一気に飲ませる。

イ．残りの食事を急いで食べてもらう。

ウ．食事を中止して呼吸状態や意識を確認し、安全を確保しながら看護職等へ速やかに報告する。

エ．声の変化は年齢によるものとして次回まで様子を見る。

答え・解説

正答：ウ

ア：嚥下状態が悪い時の一律の飲水はさらに誤嚥する危険がある。

イ：症状がある中で食事を続けるのは危険である。

ウ：むせに加えて湿性嚔声や呼吸苦が続く場合は誤嚥等を疑い、食事継続より安全確認と連携を優先する。

エ：急な湿性嚔声と呼吸苦は見逃してはいけない変化である。

総合解説：食事場面での急変では、摂取を中止し、気道・呼吸・意識などを確認して適切な職種に報告する。日常の観察が早期発見につながる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0108

総合事例（障害・医療的ケア）＞医療的ケア・急変対応事例 | 難易度：標準

Rさんが歩行中、突然「胸が締めつけられる」と訴え、冷汗と強い息苦しさが見られた。最も適切な対応はどれか。

ア．運動不足が原因と考えて歩行を続けてもらう。

イ．本人の常備薬の種類を確認せず介護職が任意の薬を飲ませる。

ウ．30分休めば治ると考え、誰にも連絡しない。

エ．活動を中止して安全な姿勢を保ち、意識・呼吸などを確認し、緊急連絡手順に従って救急要請を含む対応を行う。

答え・解説

正答：エ

ア：重篤な循環器疾患の可能性がある、運動継続は危険である。

イ：薬の使用は本人の処方や指示に従う必要があり、介護職が任意に投薬してはならない。

ウ：緊急性が高い症状を独断で経過観察するのは不適切である。

エ：胸痛、冷汗、呼吸苦は重篤な急変の可能性がある、活動継続や経過観察ではなく緊急対応が必要である。

総合解説：急な強い胸痛、冷汗、呼吸苦などは生命に関わる可能性がある。介護職は安全を確保し、緊急連絡・救急要請の手順に沿って対応する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0109

総合事例（障害・医療的ケア）＞医療的ケア・急変対応事例 | 難易度：応用

Sさんが居室で全身けいれんを起こした。周囲に机や硬い物がある。介護福祉職の対応として最も適切なものはどれか。

ア．周囲の危険物を除いて頭部を保護し、発作の開始時刻や呼吸状態を確認しながら緊急時手順に従う。

イ．舌をかまないよう硬い物を口に入れる。

ウ．けいれんを止めるため手足を強く押さえつける。

エ．発作時間は重要でないので記録しない。

答え・解説

正答：ア

ア：けいれん時は外傷を防ぎ、発作時間や呼吸状態を観察して必要な救急対応につなげる。

イ：口腔内損傷や窒息につながる危険がある。

ウ：無理な抑制は外傷につながるため不適切である。

エ：発作の持続時間は状態評価や医療連携で重要な情報となる。

総合解説：けいれん発作では、安全な環境を確保し、呼吸・意識と発作時間を観察する。口に物を入れたり、強く押さえつけたりしない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0110

総合事例（障害・医療的ケア）＞医療的ケア・急変対応事例 | 難易度：応用

糖尿病のTさんについて、個別の緊急時対応手順が事業所で共有されている。昼前に冷汗、手の震え、ふらつきがみられた。最も適切な対応はどれか。

ア．糖尿病なので全員同じ方法で対応すればよいと判断する。

イ．意識状態を確認し、共有されている個別手順に従って対応し、必要に応じて医療職や救急へ連絡する。

ウ．意識が低下していても誤嚥を考えず口から飲食物を与える。

エ．症状が治まるまで一人にして休ませる。

答え・解説

正答：イ

ア：治療内容や緊急時指示は個人で異なるため、一律対応は不適切である。

イ：低血糖を疑う症状では、本人の個別指示・緊急時手順に沿い、意識状態を含め安全を確認して対応する。

ウ：意識障害時の経口摂取は誤嚥・窒息の危険がある。

エ：状態悪化を見逃す可能性があり、観察と連絡が必要である。

総合解説：慢性疾患の急変対応では、一般的知識だけでなく本人ごとの医療指示・緊急時手順を確認し、意識や呼吸を観察して安全に連携する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0111

総合事例（障害・医療的ケア）＞感染・安全・リスク対応事例 | 難易度：基礎

施設内で利用者Uさんが突然嘔吐し、床面が汚染された。感染拡大を防ぐ初期対応として最も適切なものはどれか。

ア．乾燥するまでそのままにしてから通常のほうきで掃く。

イ．素手で素早く拭き取り、その後手洗だけ行う。

ウ．周囲の人が汚染区域へ入らないようにし、必要な個人防護具を着用して施設の手順に沿って処理・消毒する。

エ．他の利用者に手伝ってもらい短時間で片づける。

答え・解説

正答：ウ

ア：乾燥・飛散により環境汚染を広げるおそれがあり不適切である。

イ：体液に触れる可能性があるため適切な個人防護具が必要である。

ウ：嘔吐物は感染源となり得るため、区域管理、個人防護具、適切な処理・消毒を組み合わせ対応する。

エ：感染曝露を増やす可能性があり、利用者を処理に参加させるのは不適切である。

総合解説：嘔吐物処理では、感染源を広げないことが最優先である。施設の感染対策手順に従い、適切なPPEと環境消毒を行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0112

総合事例（障害・医療的ケア）＞感染・安全・リスク対応事例 | 難易度：基礎

介護福祉職Vさんは、利用者の排泄介助で手袋を使用した直後、別の利用者の食事介助に入ることになった。最も適切なものはどれか。

ア．手袋が破れていなければ同じ手袋で食事介助をする。

イ．手袋の上から手指消毒剤を塗れば交換しなくてよい。

ウ．手袋を外した後は手が直接汚れていないので手指衛生を省略する。

エ．使用した手袋を外して廃棄し、手指衛生を行ってから必要に応じ新しい手袋等を使用する。

答え・解説

正答：エ

ア：手袋表面が汚染されている可能性があり、交差感染の原因となる。

イ：使用済み手袋を交換せず次のケアに使うことは適切でない。

ウ：手袋を外した後も手指衛生が必要である。

エ：手袋は手指衛生の代わりではなく、利用者やケア場面が変わる際は交換し手指衛生を行う。

総合解説：標準予防策では、ケアの前後や手袋を外した後の手指衛生が基本であり、手袋を複数の利用者・ケアで使い回さない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0113

総合事例（障害・医療的ケア）＞感染・安全・リスク対応事例 | 難易度：基礎

同じフロアで短期間に複数の利用者へ発熱と咳がみられた。施設として最も適切な対応はどれか。

ア．発症者の状況を把握し、感染対策責任者等へ報告して必要な感染予防策、職員の健康管理、関係機関への連絡を組織的に行う。

イ．症状のある利用者だけに対応し、職員間では情報共有しない。

ウ．原因が確定するまで感染対策を始めない。

エ．発熱者の氏名を施設外のSNSで公開して注意喚起する。

答え・解説

正答：ア

ア：複数発症時は個人対応にとどめず、施設全体で早期に情報を集約して感染拡大防止策を実施する。

イ：集団発生の可能性を把握できず、感染拡大防止が遅れる。

ウ：感染症が疑われる段階から必要な基本対策を行うことが重要である。

エ：個人情報 unnecessarily 公開することは不適切である。

総合解説：施設内で複数の発症者がみられたら、早期把握、組織的な報告、標準予防策等の徹底、職員の健康管理を行い、必要に応じ関係機関と連携する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0114

総合事例（障害・医療的ケア）＞感染・安全・リスク対応事例 | 難易度：標準

Wさんが廊下で転倒した。意識は清明で「痛くない」と話している。介護福祉士の対応として最も適切なのはどれか。

ア．痛みがないため事故として扱わず、その場で終了する。

イ．外傷や痛み、可動状況、転倒時の状況を確認し、手順に沿って報告・記録し、その後の状態変化も観察する。

ウ．原因究明のため本人をすぐ何度も歩かせる。

エ．家族にだけ連絡し、事業所内の報告はしない。

答え・解説

正答：イ

ア：後から症状が出る可能性もあり、評価と経過観察を省略できない。

イ：転倒後は自覚症状が乏しくても、状態確認、報告、記録、経過観察が必要である。

ウ：転倒直後に無理に動かすと傷害を悪化させるおそれがある。

エ：施設・事業所の事故対応手順に沿った組織的な報告が必要である。

総合解説：転倒事故では、まず本人の安全と状態評価を行い、発生状況を客観的に記録・共有し、再発予防につなげる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0115

総合事例（障害・医療的ケア）＞感染・安全・リスク対応事例 | 難易度：標準

車いす移乗後、職員がブレーキをかけ忘れ、利用者Xさんが立ち上がろうとした際に車いすが動いたが、転倒には至らなかった。この事例への対応として最も適切なのはどれか。

ア．けががなかったため記録も報告もしない。

イ．担当職員を叱責するだけで対策を終える。

ウ．ヒヤリ・ハットとして報告し、個人の注意だけでなく手順や環境など再発要因をチームで検討する。

エ．今後は全利用者の車いす移乗を中止する。

答え・解説

正答：ウ

ア：未然事例を共有しないと同じ危険が繰り返される可能性がある。

イ：個人非難だけでは手順・環境などの背景要因を改善できない。

ウ：事故に至らなかった事例も、再発防止の重要な情報として組織的に分析する価値がある。

エ：過度な活動制限ではなく、原因に応じた安全対策を検討すべきである。

総合解説：リスクマネジメントでは、ヒヤリ・ハットを収集し、人的要因だけでなく業務手順や環境を分析して再発防止につなげる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0116

総合事例（障害・医療的ケア）＞感染・安全・リスク対応事例 | 難易度：標準

長時間臥床しているYさんの仙骨部に、体位を変えても消えにくい発赤を認めた。介護福祉職の対応として最も適切なのはどれか。

ア．強くマッサージして発赤を消す。

イ．痛みの訴えがないため何もしない。

ウ．発赤部分だけに体重がかかる姿勢を続ける。

エ．発赤の部位や状態を記録し、除圧・体位調整を行いながら看護職等へ報告して皮膚状態を評価してもらう。

答え・解説

正答：エ

ア：損傷が疑われる皮膚への強い摩擦は悪化させる可能性がある。

イ：感覚低下等で痛みが乏しい場合もあり、発赤自体が重要な観察所見である。

ウ：圧迫を継続すると皮膚損傷を悪化させる可能性がある。

エ：持続する発赤は褥瘡の初期変化の可能性があるため、圧を減らし、観察・共有することが重要である。

総合解説：皮膚障害の予防では、日常の観察で早期変化を捉え、除圧・体位調整を行い、必要な職種へ共有する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0117

総合事例（障害・医療的ケア）＞感染・安全・リスク対応事例 | 難易度：標準

服薬介助前に、Zさん用として準備されていた薬袋の氏名が別の利用者名であることに気づいた。最も適切な対応はどれか。

- ア．薬を渡さずに中止し、本人・薬剤・指示内容を再確認して責任者や医療職へ報告する。
- イ．薬の外見がいつもと似ているのでZさんに渡す。
- ウ．別の利用者名を線で消してZさんの名前を書き直す。
- エ．Zさんに半量だけ飲んでもらい様子を見る。

答え・解説

正答：ア

ア：誤薬を防ぐには、疑問がある時点で投薬を止めて確認することが基本である。

イ：外見だけで本人の薬と判断するのは危険である。

ウ：処方・調剤内容を介護職が独断で変更・修正してはならない。

エ：誤薬の可能性がある薬を試しに服用させることは不適切である。

総合解説：服薬に関する安全管理では、本人・薬・指示等に不一致があれば実施を止め、確認・報告する。疑問を残したまま介助しない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0118

総合事例（障害・医療的ケア）＞感染・安全・リスク対応事例 | 難易度：標準

夜間、施設の一室から煙が出て火災報知器が作動した。介護福祉職の対応として最も適切なのはどれか。

- ア．貴重品の回収を優先し、利用者の避難は後にする。
- イ．施設の消防・避難計画に従い、周囲へ知らせ、通報と初期対応を行いながら利用者を安全な場所へ避難誘導する。
- ウ．煙が少なければ報知器を止めて通常業務を続ける。
- エ．避難計画に関係なく全員をエレベーターへ集める。

答え・解説

正答：イ

ア：火災時は人命の安全確保が最優先である。

イ：火災時は人命安全を優先し、あらかじめ定めた役割と避難計画に沿って組織的に行動する。

ウ：初期の煙でも重大事故につながるため、適切な火災対応が必要である。

エ：火災時の移動方法は施設の避難計画・安全手順に従うべきであり、独断で行わない。

総合解説：災害・火災への対応は、平時に定めた避難計画、連絡体制、職員役割に沿って、人命を最優先に実施する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0119

総合事例（障害・医療的ケア）＞感染・安全・リスク対応事例 | 難易度：応用

介護福祉職が皮膚状態を看護職へ共有するため、個人所有のスマートフォンで利用者の創部を撮影し、私的なメッセージアプリで送ろうとしている。最も適切なのはどれか。

ア．医療目的なら本人への配慮や組織ルールは不要である。

イ．氏名を書かなければ必ず個人情報ではないので自由に送れる。

ウ．事業所の情報管理ルールに従い、必要性・本人への説明等を確認し、承認された安全な方法で情報共有する。

エ．後で削除すればよいので、まずSNSへ投稿して相談する。

答え・解説

正答：ウ

ア：目的が医療・介護でも個人情報保護と適切な取扱いが必要である。

イ：画像や他の情報から個人が識別される場合もあり、安易な判断はできない。

ウ：画像は個人情報を含み得るため、私物端末や私的アプリを安易に用いず、組織の規程と安全な方法に従う。

エ：不必要な外部公開は重大なプライバシー侵害となる。

総合解説：ICTを利用した情報共有では、必要最小限の情報、組織の規程、アクセス管理、本人への配慮を確認し、安全な経路を用いる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0120

総合事例（障害・医療的ケア）＞感染・安全・リスク対応事例 | 難易度：応用

夜勤中、介護福祉職が一人に対応しているとき、Aさんが転倒して動けない状態となり、同時に別室から通常のナースコールが鳴った。最も適切な対応はどれか。

ア．先に鳴ったナースコールを必ず優先し、転倒者は待たせる。

イ．一人夜勤なので誰にも連絡せずすべて一人で処理する。

ウ．転倒者を確認せずすぐ立たせてから別室へ向かう。

エ．Aさんの生命・身体への危険を優先して状態を確認し、応援要請や連絡手順を用いて他の利用者への対応も確保する。

答え・解説

正答：エ

ア：対応順は単純な先着順ではなく生命・身体への緊急度で判断する。

イ：重大事象では施設の連絡・応援体制を活用する必要がある。

ウ：傷害の有無を評価せず無理に動かすのは危険である。

エ：複数事象が同時に起きた場合は緊急度を判断し、重大な安全リスクを優先しつつ応援を求める。

総合解説：リスク対応では、複数の要請が重なっても緊急度を評価し、生命・身体の安全を優先する。組織の応援・連絡体制を活用することも重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0121

総合事例（地域・多職種・倫理）＞地域生活・社会資源の活用事例 | 難易度：基礎

一人暮らしのBさんは退職後、人と話す機会が減り「一日中テレビを見ている。以前は園芸が好きだった」と話した。地域生活支援として最も適切なのはどれか。

ア．Bさんの園芸への関心を確認し、地域の園芸活動や通いの場など本人が参加してみたい社会資源と一緒に探す。

イ．孤立防止のため本人の希望に関係なく毎日デイサービスを利用させる。

ウ．一人で過ごせているので社会参加については確認しない。

エ．園芸は転倒の危険があるため今後は禁止する。

答え・解説

正答：ア

ア：地域生活支援では、本人の興味や強みを起点に社会参加の機会へつなげることが重要である。

イ：参加先は本人の希望や生活に合わせて選ぶ必要がある。

ウ：孤立や役割喪失が生活に影響している可能性があり、本人の希望を確認する意義がある。

エ：危険を一律に理由として本人の大切な活動を奪うのは適切でない。

総合解説：社会資源は単にサービスを当てはめるのではなく、本人の生活歴、興味、役割、地域とのつながりを生かして選択する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0122

総合事例（地域・多職種・倫理）＞地域生活・社会資源の活用事例 | 難易度：基礎

歩行が難しくなったCさんは「買い物は自分で品物を見て選びたい」と話している。地域には移動販売と買物同行支援がある。最も適切な支援はどれか。

ア．家族にすべて購入してもらい、本人には選ばせない。

イ．Cさんがどの方法なら自分で選びやすいかを確認し、移動販売や同行支援などを本人と比較して選ぶ。

ウ．安全のため買物をやめ、同じ商品を定期配送に固定する。

エ．介護職が好みを推測して商品を決める。

答え・解説

正答：イ

ア：本人が選ぶことを望んでおり、その機会を不必要に奪うことになる。

イ：生活支援では、買物という活動の中にある本人の選択や役割をできるだけ維持する。

ウ：本人の希望を確認せず選択肢を固定するのは適切でない。

エ：本人自身の選択を支えることが基本である。

総合解説：地域資源は自立を代替するためだけではなく、本人が生活行為に参加し続けるために活用する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0123

総合事例（地域・多職種・倫理）＞地域生活・社会資源の活用事例 | 難易度：基礎

Dさんは運転免許を返納し、定期受診への移動手段に困っている。「できれば今の病院へ通いたい」と希望している。最も適切な支援はどれか。

ア．通院できないので本人の意向を確認せず病院を変更する。

イ．免許返納後は外出を控えるしかないと説明する。

ウ．地域の福祉輸送、公共交通支援、介護保険等で利用可能な移動支援を確認し、Dさんの希望と身体状況に合う方法を検討する。

エ．介護職が自家用車で無償送迎することを独断で約束する。

答え・解説

正答：ウ

ア：医療機関の選択は本人の希望を尊重して検討する必要がある。

イ：地域には代替交通手段や支援が存在する場合があります、まず確認すべきである。

ウ：移動の課題には、本人の目的と能力に応じて地域の交通・福祉資源を組み合わせることを検討する。

エ：事業所の規程や制度を確認せず私的な送迎を約束するのは不適切である。

総合解説：地域生活の継続には移動手段の確保が重要である。市町村や地域包括支援センター等から地域の利用可能な資源を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0124

総合事例（地域・多職種・倫理）＞地域生活・社会資源の活用事例 | 難易度：標準

認知症のEさんと妻は「夫婦で気軽に出かけ、同じ立場の人とも話せる場所がほしい」と話している。地域資源として適切なものはどれか。

ア．妻だけを家族会へつなぎ、Eさんの参加希望は無視する。

イ．認知症がある人は地域活動に参加しない方がよいと説明する。

ウ．医療機関の受診だけで地域支援は十分とする。

エ．認知症カフェなど、認知症の本人と家族が参加し交流・相談できる地域の場を案内する。

答え・解説

正答：エ

ア：本人も参加したいという希望があるため、その意向を尊重すべきである。

イ：認知症があっても地域での社会参加を支えることが重要である。

ウ：医療だけでなく生活・社会参加・家族支援を含む地域支援が必要である。

エ：認知症カフェは本人と家族、地域住民や専門職等が交流できる場として活用される。

総合解説：認知症施策では、本人と家族が地域でつながり続けることが重視される。ニーズに応じて認知症カフェ等を活用する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0125

総合事例（地域・多職種・倫理）＞地域生活・社会資源の活用事例 | 難易度：標準

フレイル傾向のFさんは以前参加していた町内の体操教室について、「また行って、受付の手伝いもしたい」と話した。最も適切な支援はどれか。

- ア．現在の体力と安全面を確認し、参加方法や役割を主催者とも相談して段階的な再参加を支援する。
- イ．フレイルがあるため、役割を持たず見学だけに固定する。
- ウ．再参加するなら以前と同じ活動量を必ずこなしてもらう。
- エ．地域活動は介護サービスではないため支援対象外とする。

答え・解説

正答：ア

- ア：社会参加では、本人が担いたい役割も生活機能の一部として捉え、安全と両立させる。
- イ：状態に応じた調整は必要だが、本人の希望する役割を最初から排除するのは適切でない。
- ウ：現在の心身機能に合わせた段階的な調整が必要である。
- エ：地域での参加や役割は自立した生活を支える重要な要素である。

総合解説：ICFの視点では、活動と参加、環境因子を含めて生活機能を捉える。本人の役割を含む地域参加を安全に支援する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0126

総合事例（地域・多職種・倫理）＞地域生活・社会資源の活用事例 | 難易度：標準

Gさんは収入が少なく、最近「食費を節約するため1日1食にしている」と話した。介護福祉職の対応として最も適切なのはどれか。

- ア．本人の金銭管理が悪いと決めつけて叱る。
- イ．健康状態と生活状況を確認し、本人の同意を得ながら福祉事務所や地域の相談窓口など生活困窮に関する支援へつなぐ。
- ウ．介護職が個人的に毎月現金を渡すことを約束する。
- エ．食事回数は本人の自由なので健康状態は確認しない。

答え・解説

正答：イ

- ア：背景を把握せず本人を責めるのは支援にならない。
- イ：経済的困難が健康や生活に影響している場合は、本人の尊厳に配慮しながら公的・地域の相談支援につなげる。
- ウ：私的な金銭関係ではなく、適切な制度・社会資源につなぐべきである。
- エ：低栄養等の健康リスクがあるため、生活状況と健康への影響を把握する必要がある。

総合解説：生活課題は介護だけで完結しない。経済的困難には、本人の意思とプライバシーに配慮して適切な相談機関・社会資源と連携する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0127

総合事例（地域・多職種・倫理）＞地域生活・社会資源の活用事例 | 難易度：標準

退院予定のHさんは歩行者を使用する。自宅の廊下が狭く、退院後に歩行者で移動できるか家族が心配している。最も適切な支援はどれか。

ア．退院後に困ってから初めて住環境を確認する。

イ．歩行器が通らない場合は本人の外出を禁止する。

ウ．退院前に本人の動作と自宅環境を確認し、医療・介護職と福祉用具や動線調整を検討する。

エ．家族に住宅改修内容をすべて任せ、本人の動作は確認しない。

答え・解説

正答：ウ

ア：事前評価により退院直後の転倒等のリスクを減らせる。

イ：環境調整や他の福祉用具を検討せず活動を制限するのは不適切である。

ウ：退院後の生活を想定して、本人の身体機能と実際の住環境を事前に評価することが重要である。

エ：本人の能力・生活目標に適合した調整が必要である。

総合解説：退院支援では、医療機関内の能力だけでなく自宅環境や地域資源まで含めて生活を見通し、多職種で準備する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0128

総合事例（地域・多職種・倫理）＞地域生活・社会資源の活用事例 | 難易度：標準

身寄りのないIさんは「体調を崩したときのことや契約の手続が心配」と話している。最も適切な対応はどれか。

ア．家族がいないので契約を伴うサービスは利用できないと説明する。

イ．介護職が本人の代理人になり、すべての契約を独断で行う。

ウ．将来の不安はまだ起きていないため相談不要とする。

エ．地域包括支援センター等へ相談し、見守り、権利擁護、成年後見制度などIさんの状況に合う支援を検討する。

答え・解説

正答：エ

ア：家族がいなくてもサービス利用ができるわけではない。

イ：正当な権限なく介護職が本人の法律行為を代行することはできない。

ウ：早めに支援体制を整えることが本人の地域生活の安心につながる。

エ：身寄りの有無だけで一つの制度に決めつけず、本人の困りごとに応じて地域の相談・権利擁護資源を検討する。

総合解説：地域包括支援センターは総合相談や権利擁護等を担う。本人の不安を具体化し、必要な制度・地域支援につなげる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0129

総合事例（地域・多職種・倫理）＞地域生活・社会資源の活用事例 | 難易度：応用

Jさんはスマートフォン操作が苦手で、市のサービス申請がオンライン中心になったことに困っている。支援として最も適切なものはどれか。

ア．窓口や電話など代替手段の有無を確認し、必要なら本人が理解できる範囲で操作支援を行い、本人の意思で申請できるようにする。

イ．本人のパスワードを介護職が預かり、今後すべての申請を無断で行う。

ウ．スマートフォンが使えない人は申請を諦めるしかないと説明する。

エ．本人への説明を省き、家族がいる場合は必ず家族名義で申請する。

答え・解説

正答：ア

ア：ICT化によってサービスへのアクセスが妨げられないよう、本人に合う方法や支援を検討する。

イ：認証情報の管理や本人の意思決定を侵害するおそれがある。

ウ：代替的な相談・申請方法がないか確認する必要がある。

エ：申請主体や意思確認を無視して家族へ置き換えるのは不適切である。

総合解説：デジタル機器の利用が難しい場合も、本人が必要なサービスへアクセスできるよう、代替手段と適切な支援を検討する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0130

総合事例（地域・多職種・倫理）＞地域生活・社会資源の活用事例 | 難易度：応用

地震後の避難所で、認知症のKさんが落ち着かず「家に帰る」と繰り返している。家族も疲弊している。最も適切な支援はどれか。

ア．混乱を防ぐため、Kさんには一切説明しない。

イ．Kさんが安心できる生活習慣や伝え方を確認し、家族、避難所職員、医療・介護関係者と情報を共有して環境を整える。

ウ．家族だけに見守りを任せ、専門職は関与しない。

エ．落ち着かないため常時身体拘束する。

答え・解説

正答：イ

ア：理解可能な方法で状況を伝え、安心につなげる必要がある。

イ：災害時でも本人中心の支援は重要で、慣れた生活情報やコミュニケーション方法を関係者で共有する。

ウ：家族負担が大きい状況では地域・専門職の支援が必要である。

エ：安易な拘束ではなく、原因や環境を評価し代替策を検討すべきである。

総合解説：災害時の認知症支援では、環境変化による不安を理解し、本人の生活歴や好みを生かしながら家族と多職種・地域で支える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0131

総合事例（地域・多職種・倫理）＞多職種連携・チーム支援事例 | 難易度：基礎

嚥下機能が低下しているLさんは「焼き魚をまた食べたい」と希望している。家族は誤嚥を心配している。多職種連携として最も適切なものはどれか。

ア．危険があるため本人に説明せず焼き魚を永久に禁止する。

イ．介護福祉職だけで食形態を通常食へ変更する。

ウ．Lさんの希望を共有し、医師・看護職・言語聴覚士・管理栄養士等と嚥下状態や食形態、安全な食べ方を検討する。

エ．家族が心配しているため、本人の希望は会議で扱わない。

答え・解説

正答：ウ

ア：安全配慮は必要だが、本人の希望を無視して一律に禁止するのは適切でない。

イ：嚥下機能や医療的リスクに関わるため、専門職と連携して検討する必要がある。

ウ：本人の食の希望を出発点に、嚥下機能と栄養・安全の視点を多職種で統合することが適切である。

エ：支援目標は本人の意思・選好を中心に検討すべきである。

総合解説：多職種連携では、各専門職が別々に判断するのではなく、本人の生活目標を共通の軸として専門的評価を統合する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0132

総合事例（地域・多職種・倫理）＞多職種連携・チーム支援事例 | 難易度：基礎

理学療法士から歩行器の使用を提案されたMさんは、「年寄りに見えるから使いたくない」と話している。介護福祉職の対応として最も適切なものはどれか。

ア．専門職の指示なのでMさんの意向に関係なく使用させる。

イ．本人が拒否したので転倒リスクについては説明しない。

ウ．介護職が理学療法士の提案を否定し、連携を終了する。

エ．Mさんが嫌だと感じる理由を聴き、転倒リスクや代替手段も含めてチームで共有し、本人と一緒に方法を検討する。

答え・解説

正答：エ

ア：本人の自己決定を無視した強制は適切でない。

イ：選択に必要な情報を分かりやすく伝える支援が必要である。

ウ：専門職間で情報を共有し、本人を中心に調整する必要がある。

エ：専門職の提案であっても本人の価値観を無視せず、理由を理解し代替案も含め共同で決めることが重要である。

総合解説：チーム支援では、専門職の評価と本人の価値観の双方を扱い、納得できる選択肢を共に検討する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0133

総合事例（地域・多職種・倫理）> 多職種連携・チーム支援事例 | 難易度：基礎

Nさんの移乗介助について、職員ごとに手順が異なり、Nさんから「毎回やり方が違って怖い」と訴えがあった。最も適切な対応はどれか。

ア．Nさんの現在の能力と希望を再評価し、必要に応じ専門職と確認して、安全な介助手順をチームで共有する。

イ．各職員が最もやりやすい方法を続ける。

ウ．Nさんには慣れてもらうよう説明し、手順は見直さない。

エ．最も力の強い職員の方法を全員にそのまま採用する。

答え・解説

正答：ア

ア：介助方法のばらつきは利用者の不安と事故リスクにつながるため、本人の状態に合わせて標準化・共有する。

イ：職員都合で手順がばらばらでは安全性と本人の安心が損なわれる。

ウ：本人の訴えは再評価の重要な情報である。

エ：個人の力ではなく、本人の能力・福祉用具・安全性に基づく手順が必要である。

総合解説：チームケアでは、介護計画や観察結果を基に支援方法を共有し、誰が担当しても一貫した安全な支援を目指す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0134

総合事例（地域・多職種・倫理）> 多職種連携・チーム支援事例 | 難易度：標準

薬剤師から「Oさんの眠気と服薬の時間に関連があるかもしれない」と情報提供があった。最近Oさんは午前中のふらつきも増えている。介護福祉職の対応として最も適切なのはどれか。

ア．副作用と断定し、介護職の判断で薬を中止する。

イ．眠気やふらつきの時刻・状況を観察して記録し、看護職・医師・薬剤師等へ共有する。

ウ．薬の問題なので生活場面の観察は不要とする。

エ．転倒予防のため終日ベッド上で過ごしてもらう。

答え・解説

正答：イ

ア：服薬中止は介護職が独断で行うことではない。

イ：介護職が生活面で得た具体的な観察情報は、薬剤の影響を検討する多職種連携に有用である。

ウ：時間帯や活動との関連など生活情報は重要な判断材料となる。

エ：原因評価や代替策を検討せず活動を過度に制限するのは不適切である。

総合解説：多職種連携では、介護職は診断や処方変更を行うのではなく、生活の中の変化を具体的に観察・記録して専門職へ提供する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0135

総合事例（地域・多職種・倫理）＞多職種連携・チーム支援事例 | 難易度：標準

Pさんは義歯が合わず口腔乾燥もあり、食事摂取量が低下している。チーム支援として最も適切なものはどれか。

ア．義歯が合わなくても食事時間を長くすれば解決すると考える。

イ．口腔の問題は歯科だけに任せ、介護職は食事状況を共有しない。

ウ．口腔状態と食事状況を共有し、歯科職、看護職、管理栄養士等と義歯・口腔ケア・食形態や栄養を総合的に検討する。

エ．食べられないので本人の好みに関係なく栄養補助食品だけにする。

答え・解説

正答：ウ

ア：原因への対応にならず、摂取低下が続く可能性がある。

イ：生活場面の摂取状況は他職種の評価に重要である。

ウ：口腔の問題は食事・栄養・全身状態に影響するため、複数の専門的視点を組み合わせる。

エ：本人の嗜好や原因評価を踏まえて多職種で検討する必要がある。

総合解説：チーム支援では、口腔・嚥下・栄養・食事介助を分断せず、本人の食生活を中心に情報を共有して支援する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0136

総合事例（地域・多職種・倫理）＞多職種連携・チーム支援事例 | 難易度：標準

社会福祉士から、Qさんの家賃滞納の相談に必要として生活状況の情報提供を求められた。情報共有として最も適切なものはどれか。

ア．同じ支援チームなら本人に関係する情報をすべて無条件で共有する。

イ．個人情報なので、どのような支援目的でも一切共有できない。

ウ．手軽なのでQさんの情報を職員個人のSNSへ掲載する。

エ．支援目的と必要性を確認し、本人への説明・同意等を踏まえて、必要な範囲の情報を安全な方法で共有する。

答え・解説

正答：エ

ア：チーム内でも必要性や取扱いルールを考慮する必要がある。

イ：適切な支援のため必要な情報共有が認められる場合がある。

ウ：支援目的を逸脱した不適切な情報公開である。

エ：多職種連携でも個人情報は無制限に共有せず、目的と必要性に応じて適切に取り扱う。

総合解説：連携と守秘義務は対立するものではない。本人の権利を守りながら、支援に必要な情報を必要な範囲で安全に共有する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0137

総合事例（地域・多職種・倫理）＞多職種連携・チーム支援事例 | 難易度：標準

Rさんは「最期まで自宅で暮らしたい」と希望しているが、同居する娘は介護負担から施設入所を希望している。チームでの対応として最も適切なのはどれか。

ア．Rさんの希望を中心に、娘の負担や在宅に必要な支援も具体化し、多職種で複数の選択肢を検討する。

イ．家族が介護するので娘の希望だけで入所を決める。

ウ．本人の希望を優先するため娘の負担は支援対象にしない。

エ．意見が違うため介護職は話し合いに参加しない。

答え・解説

正答：ア

ア：本人の意思を尊重しつつ、家族の負担も支援課題として扱い、実現可能な支援体制を検討する。

イ：本人の住まいに関する意思を無視している。

ウ：本人の地域生活継続には家族支援も重要である。

エ：対立時こそ本人・家族・多職種で課題を整理する必要がある。

総合解説：意向が異なる事例では、どちらか一方を即座に採用せず、本人の意思、家族状況、利用可能な資源を具体的に示してチームで検討する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0138

総合事例（地域・多職種・倫理）＞多職種連携・チーム支援事例 | 難易度：標準

介護福祉職がSさんの踵に発赤を見つけ、看護職へ報告する。最も適切な報告内容はどれか。

ア．「たぶん褥瘡です」とだけ伝える。

イ．発赤の場所、大きさや色、消退の有無、痛み、発見時刻、体位など観察した事実を具体的に伝える。

ウ．「なんとなく赤いです」と曖昧に伝える。

エ．忙しそうなので記録だけ残し、必要な報告はしない。

答え・解説

正答：イ

ア：診断名の推測だけでは状態を評価するための情報が不足する。

イ：他職種が状態を判断できるよう、診断ではなく観察した事実を具体的・客観的に伝えることが重要である。

ウ：部位や程度など具体性がなく、適切な判断につながりにくい。

エ：皮膚状態の変化は速やかな共有が必要な場合がある。

総合解説：チームコミュニケーションでは、介護職が生活場面で観察した変化を具体的な事実として伝えることが専門性の一つである。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0139

総合事例（地域・多職種・倫理）＞多職種連携・チーム支援事例 | 難易度：応用

Tさんの退院前カンファレンスを行う。退院後は複数の在宅サービスを利用する予定である。会議で最も優先して共有すべき内容はどれか。

ア．各事業所の内部事情だけを共有し、本人の希望は扱わない。

イ．役割分担は決めず、問題が起きたときに担当者を探す。

ウ．Tさんが望む生活、現在の状態、各職種の役割、観察事項、緊急時の連絡方法を具体化する。

エ．医療情報だけを扱い、生活上の課題は共有しない。

答え・解説

正答：ウ

ア：会議の中心は本人の生活と支援課題である。

イ：役割や連絡体制を事前に明確化することが安全につながる。

ウ：退院後の連携では、本人の目標を共通にし、誰が何を担い、変化時にどう連絡するかを明確にする必要がある。

エ：在宅生活では医療と生活の双方を統合して考える必要がある。

総合解説：カンファレンスでは、本人の生活目標を軸に、支援内容、役割、観察・報告事項、緊急時対応を共有して継続性を確保する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0140

総合事例（地域・多職種・倫理）＞多職種連携・チーム支援事例 | 難易度：応用

転倒を繰り返すUさんの家族が「危ないのでベッドから立てないように縛ってほしい」と強く求めた。チームとして最も適切なものはどれか。

ア．家族が希望しているので直ちに身体拘束を行う。

イ．転倒は本人の不注意なので本人に責任を負わせる。

ウ．転倒記録を残さず、職員だけで注意する。

エ．転倒の原因や時間帯、身体機能、環境を再評価し、見守りや環境調整など代替策をチームで検討する。

答え・解説

正答：エ

ア：家族の希望だけで身体拘束を正当化することはできない。

イ：転倒には身体・環境・ケア方法など複数の要因があり得る。

ウ：事故情報を記録・分析し、組織的に再発防止へつなげる必要がある。

エ：安全確保を理由に安易に身体拘束へ進むのではなく、原因分析と代替策の検討が必要である。

総合解説：倫理と安全が交差する場面では、本人の尊厳・自由を守りつつ安全を高める方法をチームで検討する。安易な拘束に頼らない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0141

総合事例（地域・多職種・倫理）＞倫理・権利擁護・意思決定事例 | 難易度：基礎

転倒歴のあるVさんは「天気の良い日は一人で庭を歩きたい」と希望している。家族は「危ないから絶対に歩かせないで」と求めた。介護福祉職の対応として最も適切なのはどれか。

ア．Vさんの希望と転倒リスクを具体的に評価し、歩行補助具、時間帯、見守り方法、環境整備など安全に希望を実現する方法を検討する。

イ．家族が反対しているため、Vさんには理由を説明せず外出を禁止する。

ウ．自己決定を尊重するため、転倒リスクは確認せず完全に一人で歩いてもらう。

エ．事故責任を避けるため、庭への扉を常時施錠する。

答え・解説

正答：ア

ア：自己決定と安全は二者択一ではなく、リスクを評価し低減策を講じながら本人の希望をできる限り実現する。

イ：本人の意思を無視した一律の制限は適切でない。

ウ：自己決定の尊重と必要な安全支援は両立させる必要がある。

エ：過度な行動制限は本人の自由や生活の質を損なう。

総合解説：倫理的判断では、本人の価値観と安全の双方を具体的に検討し、最も制限の少ない方法で本人の望む生活を支える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0142

総合事例（地域・多職種・倫理）＞倫理・権利擁護・意思決定事例 | 難易度：基礎

Wさんの同室者の家族から「Wさんは何の病気なのですか」と尋ねられた。介護福祉職の対応として最も適切なのはどれか。

ア．同室なので病名だけなら伝えてよい。

イ．Wさんの病名など個人情報は伝えず、必要があれば担当者に相談するよう案内する。

ウ．家族同士なら情報共有してよいと判断して詳しく説明する。

エ．噂になっている内容なら事実確認せず伝えてよい。

答え・解説

正答：イ

ア：同室であることは個人情報を共有する正当な理由にはならない。

イ：利用者の健康情報は機微性の高い個人情報であり、支援上の必要性がない第三者へ安易に提供してはならない。

ウ：本人の情報を無関係な第三者へ提供するのは不適切である。

エ：噂であっても本人のプライバシーを侵害する情報提供は避けるべきである。

総合解説：守秘義務・個人情報保護では、誰が知りたいかではなく、支援上の必要性、本人の権利、適切な手続きに基づいて共有範囲を判断する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0143

総合事例（地域・多職種・倫理）＞倫理・権利擁護・意思決定事例 | 難易度：基礎

長く担当しているXさんから、退所時に高価な腕時計を「お世話になったお礼」と渡された。介護福祉士の対応として最も適切なのはどれか。

ア．本人が自発的に渡したので必ず受け取る。

イ．他職員に知らなければ個人的に受け取ってよい。

ウ．感謝の気持ちは受け止めつつ高価な贈り物は受け取らず、事業所の倫理規程や上司への報告手順に従う。

エ．受け取る代わりに今後も特別な便宜を図ると約束する。

答え・解説

正答：ウ

ア：自発的な申し出でも専門職としての関係性と倫理規程を考慮する必要がある。

イ：秘密にして受領することは専門職倫理上さらに問題となる。

ウ：専門職と利用者の関係には力の非対称性があり、高価な贈答は境界を曖昧にするため、組織の規程に沿って対応する。

エ：特別扱いとの交換は公正な専門職関係を損なう。

総合解説：専門職倫理では、利用者との適切な境界を保ち、利益相反や特別扱いにつながる行為を避ける。迷う場合は組織の規程に従う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0144

総合事例（地域・多職種・倫理）＞倫理・権利擁護・意思決定事例 | 難易度：標準

施設行事で撮影したYさんの写真を、職員が施設の公式SNSへ掲載しようとしている。最も適切な対応はどれか。

ア．施設行事の写真なら本人の意思に関係なく公開できる。

イ．顔を少し小さく写せば必ず同意は不要になる。

ウ．投稿後に本人が嫌がったら考えればよい。

エ．掲載目的、公開範囲、事業所の規程を確認し、Yさんへ分かりやすく説明して必要な同意等の手続を行う。

答え・解説

正答：エ

ア：施設内で撮影したことと外部公開の可否は別問題である。

イ：画像から個人が識別できる可能性があり、一律に同意不要とはいえない。

ウ：公開前に本人の権利と情報管理を確認する必要がある。

エ：写真は個人を識別し得る情報であり、広く公開する場合は目的と範囲を明確にし、適切な手続が必要である。

総合解説：ICT・広報利用では、介護目的の内部利用と一般公開を区別し、利用目的、本人の意思、事業所規程に基づいて個人情報を取り扱う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0145

総合事例（地域・多職種・倫理）＞倫理・権利擁護・意思決定事例 | 難易度：標準

入浴予定のZさんが「今日は入りたくない」と繰り返し拒否している。職員は予定どおり入浴させたいと考えている。最も適切な対応はどれか。

ア．拒否の理由や体調、普段の入浴習慣を確認し、時間変更や清拭など代替方法も提案して本人の選択を尊重する。

イ．清潔保持のため複数職員で押さえて入浴させる。

ウ．拒否した理由は確認せず、その後すべての入浴支援を中止する。

エ．本人には説明せず家族の同意だけで入浴させる。

答え・解説

正答：ア

ア：介護予定を優先して強制するのではなく、拒否の背景を理解し、本人が選べる代替案を検討する。

イ：緊急性がない場面で強制することは尊厳や自己決定を侵害する。

ウ：一度の拒否だけで継続的な支援を放棄するのは適切でない。

エ：本人の意思を中心に支援を検討する必要がある。

総合解説：日常生活上の自己決定は尊重されるべきであり、拒否がある場合は背景を評価し、選択可能な方法を提示する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0146

総合事例（地域・多職種・倫理）＞倫理・権利擁護・意思決定事例 | 難易度：標準

同僚が利用者Aさんに怒鳴りながら腕を強く引っ張っている場面を目撃した。Aさんは怯えている。介護福祉職の対応として最も適切なのはどれか。

ア．同僚との関係が悪くなるので見なかったことにする。

イ．まずAさんの安全を確保し、観察した事実を客観的に記録して、組織の虐待防止手順に従い責任者等へ速やかに報告する。

ウ．後でAさん本人を責め、職員を怒らせないように注意する。

エ．証拠が不足しているのでSNSに投稿して世間の判断を求める。

答え・解説

正答：イ

ア：利用者の安全・権利を守る専門職責務に反する。

イ：不適切なケアや虐待が疑われる場合は利用者の安全を優先し、事実を記録して組織的に対応する。

ウ：被害を受けた利用者へ責任を転嫁するのは不適切である。

エ：個人情報を外部公開するのではなく、正式な報告・相談手順を用いる。

総合解説：介護福祉職には利用者の尊厳・権利を守る役割がある。虐待が疑われる状況は個人で抱えず、安全確保、記録、報告を行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0147

総合事例（地域・多職種・倫理）＞倫理・権利擁護・意思決定事例 | 難易度：標準

トランスジェンダーのBさんが「入浴介助はできれば特定の性別の職員にお願いしたい。必要以上に他の人へは話さないでほしい」と希望した。最も適切な対応はどれか。

ア．職員配置の都合だけで希望を聞かずに決める。

イ．興味深い情報なので全職員へ詳細に共有する。

ウ．Bさんの希望と理由を尊重し、実現可能な方法を検討するとともに、支援に必要な範囲だけで情報を共有する。

エ．性別に関する希望は介護と無関係なので記録も確認もしない。

答え・解説

正答：ウ

ア：本人の羞恥心や尊厳に関わる希望を検討せず排除するのは不適切である。

イ：支援に不要な範囲まで情報を広げるのはプライバシー侵害となる。

ウ：本人の尊厳、プライバシー、希望を尊重し、支援に必要な範囲で情報を取り扱うことが適切である。

エ：入浴介助の安心・尊厳に直接関わる可能性があるため、本人の希望を確認する必要がある。

総合解説：個別性のある介護では、本人が大切にしている価値観やプライバシーを尊重し、必要最小限の情報共有で支援を調整する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0148

総合事例（地域・多職種・倫理）＞倫理・権利擁護・意思決定事例 | 難易度：標準

成年後見人が付いているCさんが、日用品を買う際に「青いタオルがいい」と希望した。職員は「後見人がいるから本人は選ばなくてよい」と言った。最も適切な考え方はどれか。

ア．成年後見人が付くと本人は日常生活の選択もすべてできなくなる。

イ．介護職が好みを決め、本人には選択肢を示さない。

ウ．本人と後見人の意見が違えば、必ず介護職の判断を優先する。

エ．成年後見人がいても、Cさんが自分で決められる日常生活上の選択は本人の意思を尊重する。

答え・解説

正答：エ

ア：成年後見制度があることだけで日常の自己決定がすべて失われるわけではない。

イ：本人が選べる場面では本人の意思を確認する必要がある。

ウ：介護職が法的・生活上の意思決定を一方向的に置き換えることはできない。

エ：成年後見制度の利用は本人の意思決定を一律に奪うものではなく、本人の意思尊重が基本である。

総合解説：権利擁護は本人の能力を奪うことではなく、本人ができる意思決定を最大限尊重し、必要な場面だけ支援を補う考え方である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0149

総合事例（地域・多職種・倫理）＞倫理・権利擁護・意思決定事例 | 難易度：応用

終末期にあるDさんは以前から「可能なら自宅で家族と過ごしたい」と繰り返し話していたが、現在は意思を十分に表明できない。家族は急に「病院の方が安心」と迷い始めた。最も適切な支援はどれか。

ア．Dさんがこれまで示してきた希望や価値観を確認し、現在の医学的状況と家族の不安も共有して、多職種で本人にとって望ましい方針を検討する。

イ．現在話せないで、過去の本人の希望はすべて無視する。

ウ．家族の最新の希望だけで直ちに方針を決める。

エ．介護福祉職が単独で療養場所を決定する。

答え・解説

正答：ア

ア：本人が意思表示できない場合も、過去の意味・価値観を手がかりに、家族と専門職が本人中心に検討する。

イ：過去に繰り返し示された意思や価値観は重要な判断材料となる。

ウ：家族の不安も重要だが、本人の意思・価値観を中心に検討する必要がある。

エ：終末期の方針は医療・介護職と家族等が本人を中心に話し合うべきである。

総合解説：意思表示が難しい終末期では、本人がこれまで示した意思や人生観を尊重し、医療・介護チームと家族が継続的に話し合う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0150

総合事例（地域・多職種・倫理）＞倫理・権利擁護・意思決定事例 | 難易度：応用

日本語の理解が十分でないEさんへ、重要な介護サービスの利用内容を説明することになった。家族は「私が全部答えるので本人には説明しなくてよい」と言う。最も適切な対応はどれか。

ア．家族がいる場合は本人への説明を省略してよい。

イ．必要に応じ通訳ややさしい日本語、図や写真を用い、Eさん本人が理解し意思を表せるように支援する。

ウ．日本語が十分でないことを意思決定能力がないことと同じとみなす。

エ．介護職の都合で最も簡単なサービスを選び、後で本人へ報告する。

答え・解説

正答：イ

ア：家族の存在は本人への説明・意思確認を不要にするものではない。

イ：言語の壁があっても本人を意思決定から除外せず、理解可能な情報提供方法を整えることが重要である。

ウ：言語能力と意思決定能力を混同してはならない。

エ：本人が選択に参加する機会を保障する必要がある。

総合解説：文化・言語の違いがある場合も、情報へのアクセスを確保し、本人が理解し表明できる方法を整えることが尊厳と自己決定の保障につながる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04